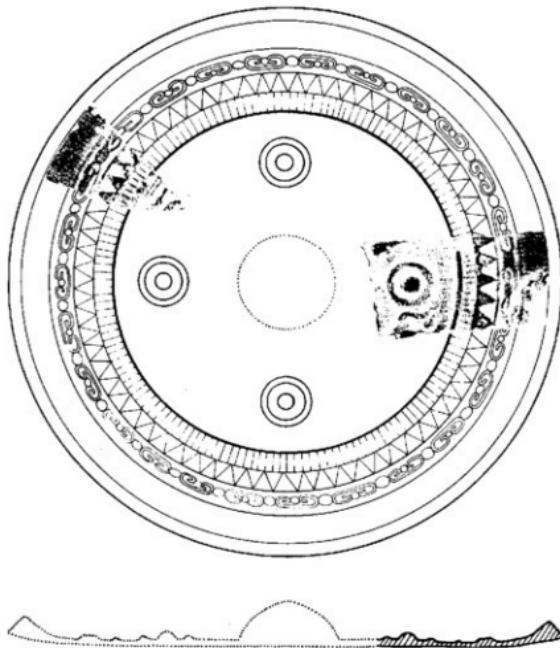


野方塚原遺跡

—福岡市西区大字野方字塚原所在—

福岡県勤労者住宅生活協同組合用地の調査
福岡市埋蔵文化財調査報告書第490集
付録、大塚遺跡第3次調査



1996

福岡市教育委員会
野方塚原遺跡調査会

野方塚原遺跡

—福岡市西区大字野方字塚原所在—

1996

福岡市教育委員会
野方塚原遺跡調査会

序 文

野方塚原遺跡の発掘調査報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

この地に福岡県勤労者住宅生活協同組合様が宅地造成のため、福岡市教育委員会に発掘調査の申請をされたのが昭和49年（1974）であります。

福岡市教委としまして本市の調査体制の整備を待つては、申請者にご迷惑が掛る事を配慮し、明治大学考古学研究室のご理解を得、当時大学院生であった石川むつみ様を会長とする調査会を発足させ、昭和50年3月より4月まで本調査を行いました。

遺跡は弥生時代後期の葬送の有り方を示す貴重な資料を提供しています。これも一重に調査にご理解ご協力戴いた明治大学考古学研究室、福岡県勤労者住宅生活協同組合様など関係各位のおかげと感謝申し上げますとともに、本報告が後世に貢って、活用される事を希望しましてご挨拶をいたします。

平成8年3月31日

福岡市教育長 尾 花 剛

例 言

1. 本報告書は、福岡市教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書第490集で、「野方塚原遺跡」の報告書である。
2. 本遺跡の記号を福岡市の「NTK」、調査番号を福岡市の「7401」、福岡市文化財分布地図の登載記号を「105-A-4」とする。
3. 本遺跡の調査面積は約2,000平方メートルで、調査年月日は昭和50年3月4日から同年4月30日までである。
4. 本遺跡の関連資料は福岡市埋蔵文化財センターに保管している。
5. 本報告書の図版等の作成は、石川むつみ、武藤和子、千田利明、坪多正裕、折尾學が行なった。
6. 本報告書の編集は、石川むつみ、折尾學が行なった。

補、付録大塚遺跡第3次発掘調査略報について

遺跡記号「OTS」、遺跡調査番号「8101」、文化財分布地図登載記号「112-A-4」、調査面積「約200平方メートル」、調査年月日「昭和57年2月1日から同年2月28日」、関連資料保管場所「福岡市埋蔵文化財センター」。

目 次

1. 位置と環境	12
2. 調査経過	12
3. 調査の概要	14
4. 遺構と遺物	
(1) 瓦棺墓	20
(2) 石棺墓	29
(3) その他の遺物	53

挿図目次

Fig. 1	周辺主要遺跡分布図 (縮尺1/50,000)	8
Fig. 2	野方塚原遺跡とその周辺 (縮尺1/4,000)	11
Fig. 3	調査区実測図 (縮尺1/1,000)	13
Fig. 4	第1区実測図 (縮尺1/200)	14
Fig. 5	第1区遠景	(Ph. 1) 14
Fig. 6	第2・3・4・区実測図 (縮尺1/200)	15
Fig. 7	第2・3・4・区遠景 (上から2・3・4区)	(Ph. 2) 16
Fig. 8	第5区実測図	17
Fig. 9	第5区遠景	(Ph. 3) 17
Fig. 10	第7・8・9区実測図	18
Fig. 11	第7区遠景	(Ph. 4) 19
Fig. 12	1号壇棺墓出土獸帶鏡拓影 (縮尺 実大)	20
Fig. 13	獸帶鏡片	(Ph. 5) 20
Fig. 14	2号(上)・3号(下)壇棺墓実測図 (縮尺1/20)	21
Fig. 15	2号壇棺墓	(Ph. 6) 22
Fig. 16	3号壇棺墓	(Ph. 7) 22
Fig. 17	3号壇棺墓祭祀遺構	23
Fig. 18	3号壇棺墓と祭祀遺構	(Ph. 8) 24
Fig. 19	3号壇棺墓と祭祀遺構	(Ph. 9) 24
Fig. 20	1号壇棺実測図 (縮尺1/6)	25
Fig. 21	2号壇棺実測図 (縮尺1/6)	26
Fig. 22	3号壇棺実測図 (縮尺1/4)	27
Fig. 23	3号壇棺墓祭祀用高壠	28
Fig. 24	1・2号石棺墓実測図 (縮尺1/30)	30
Fig. 25	上 1・2号石棺墓 (上が1号), 中 1号石棺墓, 下 2号石棺墓	(Ph. 10) 31
Fig. 26	3号石棺墓実測図 (縮尺1/50)	32
Fig. 27	3号石棺墓	(Ph. 11) 32
Fig. 28	3号石棺墓実測図 (縮尺1/30)	33
Fig. 29	3号石棺墓	(Ph. 12) 33
Fig. 30	3号石棺墓供獻土器	(Ph. 13) 34
Fig. 31	3号石棺墓	(Ph. 14) 34
Fig. 32	3号石棺墓供獻土器実測図 (縮尺1/4)	35
Fig. 33	3号石棺墓供獻土器	(Ph. 15) 35
Fig. 34	3号石棺墓供獻土器実測図 (縮尺1/3)	36

Fig. 35	3号石棺墓供献土器実測図（縮尺1/3）	37
Fig. 36	4号石棺墓実測図（縮尺1/40）	38
Fig. 37	4号石棺墓	(Ph.16) 38
Fig. 38	4号石棺墓実測図（縮尺1/30）	39
Fig. 39	4号石棺墓	(Ph.17) 39
Fig. 40	4号石棺墓と供獻土器	(Ph.18) 40
Fig. 41	4号石棺墓と供獻土器	(Ph.19) 40
Fig. 42	4号石棺墓供獻土器実測図（縮尺1/3）	41
Fig. 43	5号石棺墓実測図（縮尺1/30）	42
Fig. 44	5号石棺墓遠景	(Ph.20) 42
Fig. 45	5号石棺墓	(Ph.21) 43
Fig. 46	5号石棺墓	(Ph.22) 43
Fig. 47	7・8号石棺墓実測図（縮尺1/30）	44
Fig. 48	7区遠景	(Ph.23) 45
Fig. 49	7・8・9号石棺墓	(Ph.24) 45
Fig. 50	7号石棺墓	(Ph.25) 45
Fig. 51	8号石棺墓	(Ph.26) 45
Fig. 52	9号石棺墓実測図（縮尺1/30）	46
Fig. 53	9号石棺墓	(Ph.27) 46
Fig. 54	9号石棺墓	(Ph.28) 46
Fig. 55	10・11号石棺墓実測図（縮尺1/30）	47
Fig. 56	10号石棺墓	(Ph.29) 48
Fig. 57	11号石棺墓	(Ph.30) 48
Fig. 58	9区遠景	(Ph.31) 49
Fig. 59	13号石棺墓	(Ph.32) 49
Fig. 60	12号石棺墓と12・13号石棺墓実測図（縮尺1/30）	(Ph.33) 49
Fig. 61	9区祭祀遺構	(Ph.34) 50
Fig. 62	9区祭祀遺構出土土器実測図（縮尺1/3）（その3）	50
Fig. 63	9区祭祀遺構出土土器実測図（縮尺1/3）（上 その2, 下 その1）	51
Fig. 64	6号石棺墓供獻土器実測図（縮尺1/3）	52
Fig. 65	出土押型文土器拓影（8区内出土）（縮尺1/3）	53
Fig. 66	包含層出土土器（縮尺1/3）	54
Fig. 66 _(n)	石器と鉄器実測図（縮尺1/2）	54
Fig. 67	包含層出土土器（縮尺1/3）	55
Fig. 68	包含層出土土器（須恵器）（縮尺1/3）	56
Fig. 69	包含層出土土器（須恵器）（縮尺1/3）	57
Fig. 70	包含層出土土器（轆、甕・須恵器）（縮尺1/3）	58

1. 位置と環境



Fig. 1 周辺主要遺跡分布図 (1/50,000)
 ○印が本遺跡

1. 位置と環境

Tab. 1 野方塚原遺跡周辺調査遺跡一覧表

No.	遺跡名	調査原因	調査主体	遺跡の概要	時代	備考
1	五島山古墳	山林開墾		箱式石棺、銅鏡・他	古墳前期	1913年10月
2	藤崎遺跡群	島田省二郎・中山平次郎・鶴山監修(福岡市高遠遺跡設置)	島田省二郎・中山平次郎・鶴山監修	箱式石棺、銅鏡 2	弥生前期～古墳	1911年・1915年 1930年発見調査
		地下鉄建設	市教委	櫛形墓・石棺墓	弥生前期～中期	1977～1978年 調査
		ビル建設	市教委	櫛形墓・土坑墓	弥生前期～中期	1977年調査
	ターミナル建設	市教委	方形圓溝墓・劍匣 3・他	弥生末期～古墳	1980年調査	
3	城ノ原庵寺		寺院址	奈良	1927年～鍾山氏 玉泉氏贈金	
4	東留美跡	園再施工事	金間丈夫・森貞次郎	箱式石棺墓・銅鏡・他	古墳前期	1952年10月
5	飯倉丸尾遺跡	土砂崩壊	森貞次郎・岡崎敬	櫛形墓・細型劍匣	弥生前期	1963年8月
6	有田遺跡群	土地区画整理 住宅建設等	市教委 九太考古学研究所 市教委	集落址・他	古墳前期～中期	1966～1967年 調査
7	元冠防墓	保存整備	市教委 九太考古学研究所 市教委	生の松原地区元冠防墓 西新地区元冠防墓	櫛形～中世 鍾倉	1967年調査
8	大又遺跡	今宿バイパス建設 (日本道路公团)	県教委	集落址	弥生後期～ 古墳後期	1969年～1971年 調査
9	高崎古墳群	今宿バイパス建設 (日本道路公团)	県教委	円墳 6基	古墳後期	1969年～1971年 調査
10	宮の前遺跡 (山手遺跡)	今宿バイパス建設 (日本道路公团)	県教委	集落址	弥生後期～古墳	1969年調査
11	湯納遺跡	今宿バイパス建設 (日本道路公团)	県教委	集落址・水田址	鶴文・弥生・古墳	1971年～1973年 調査
12	小松ヶ丘古墳群	宅地造成	鈴木重治他	円墳 16基・他	古墳後期	1970年～1973年 調査
13	金武古墳群	宅地造成	九大考古学研究所	円墳 2基・他	古墳後期	1970年調査
14	影塚1・2号墳		市教委	円墳 2基	古墳後期	1971年調査
15	下山門遺跡	市営住宅建設(下山門地)	市教委	集落址・製鉄址	古墳～平安	1972年調査
16	姪浜新町遺跡	店舗建設基礎工事	市教委	櫛形墓・他	弥生中期	1972年調査
17	斜ヶ瀧瓦窯址	下水道管理工事	市教委	櫛形墓・他	弥生中期	1980年調査
18	草場古墳群	宅地造成	市教委	円墳 4基	古墳後期	1973年調査
19	コノリ古墳群	宅地造成	日大・竹石建二	円墳 8基	古墳後期	1973年調査
20	牛多山遺跡	荒幡中学校建設 (福岡市教育委員会)	市教委	水路址・製鉄址	古墳～奈良	1973年調査
21	野方中原遺跡	宅地造成	市教委	集落址・墳墓址	弥生後期～古墳	1973年～1974年 調査
22	鶴町遺跡	賀茂小学校建設 (福岡市教育委員会)	市教委	水路址	弥生前期～古墳	1973年調査
23	野方塚原遺跡	宅地造成	野方塚原遺跡調査会	墳墓址	弥生終末期～古墳	1975年調査
24	戸切中原遺跡	宅地造成	日大・竹石建二	集落址	古墳	1974年調査
25	戸切瀧瓦群	香椎南小学校建設 (福岡市教育委員会)	市教委	集落址・倉庫群	古墳～中世	1974年～1975年 調査
26	四箇瀧瓦群	田代建設(田代地)	市教委	集落址・水田址・墳墓址	鶴文～古墳	1976年～1978年 調査

1. 位置と環境

No.	遺跡名	調査原因	調査主体	遺跡の概要	時代	備考
26	四箇道跡群	住宅・店舗建設	市教委	集落址・水田址・墳墓址 縄文—古墳	1976年～ 統計調査	
27	山崎古墳群	宅地造成	大川清	円墳10基・他	古墳後期	1974年調査
28	広石古墳群 <small>(狭間市教育委員会)</small>	西隣高架建設	市教委	円墳7基	古墳後期	1975年～1976年 調査
29	下山門駅町遺跡	宅地造成	市教委	銅戈3・官衙址?	弥生～平安	1975年調査
30	下山門南遺跡 <small>(狭間市教育委員会)</small>	团地建設	市教委	包含層・坑網	古墳前胡	1976年予備調査 1980年本調査
31	石丸古川遺跡 <small>(日本住宅公団)</small>	团地建設	市教委	包含層・建物群	古墳～奈良	1976年予備調査 1981年本調査
32	原談儀遺跡	店舗建設	市教委	水田址・集落址	縄文後期～中世	1975年調査
				雙棺墓	弥生後期	
33	西新町遺跡 <small>(狭間市高庭鉄道建設部)</small>	地下鉄建設	市教委	集落址・墳墓址	弥生後期～古墳	1976年～1978年 調査
34	盛岡遺跡	消防学校建設	市教委	建物群	古墳	1976年～1977年 調査
35	樋重遺跡	分譲住宅建設	市教委	水田址	弥生前期	1976年調査
36	夫婦塚古墳	水田造作	市教委	円墳2基	古墳後期	1978年調査
37	吉古墳群D群	県道建設	市教委	円墳6基	古墳後期	1978年調査
38	高柳遺跡	中学校建設	市教委	土坑墓その他	平安～鎌倉	1978年調査
39	千畠遺跡	分譲住宅建設	市教委	石棺墓・土坑墓・他	弥生後期～奈良	1979年調査
40	千葉カツラ古墳群	分譲住宅建設	市教委	円墳2基・他	古墳後期	1979年調査
41	吉塚原古墳群	避場整備	市教委	円墳8基	古墳後期	1979年調査
42	飯食向江遺跡	マンション建設	市教委	雙棺墓1基・他	弥生中期	1979年調査
43	原小園遺跡	マンション建設		堅穴・他	平安	1979年調査
44	下山門南遺跡	团地建設(公社)	市教委	住居址・他	弥生中期～後期	1979年調査
45	原深町遺跡	小学校建設	市教委	水路遺構・他	古墳前期	1979年調査
46	乙石A遺跡	県道建設	市教委	建物群・他	平安	1979年調査
47	西方如意原遺跡	分譲住宅	市教委	住居址・他	弥生後期	1979年～1980年 調査
48	羽根戸古墳群	砂防ダム建設	市教委	円墳4基	古墳後期～古墳	1980年調査
49	吉古墳熊山古墳群	重要遺跡確認調査	市教委	円墳8基の内 含む古墳1基	古墳後期	1980年調査
50	次郎丸高石遺跡	中学校建設		堅穴・溝・他	縄文後期～古墳	1980年調査
51	横木桜田遺跡	分譲住宅建設	市教委	建物群・他	平安	1980年調査
52	三郎丸古墳群	分譲住宅建設	市教委	円墳13基	古墳後期	1980年調査
53	庶前田遺跡	マンション建設		堅穴・他	平安	1980年調査
54	都地南遺跡	JR道建設		建物群・他	弥生～平安	1980年調査
55	若八町ツイジ遺跡	小学校建設		水路遺構・他	弥生～鎌倉	
56	山村遺跡群	团地建設(公社)		水路遺構・他	弥生～	

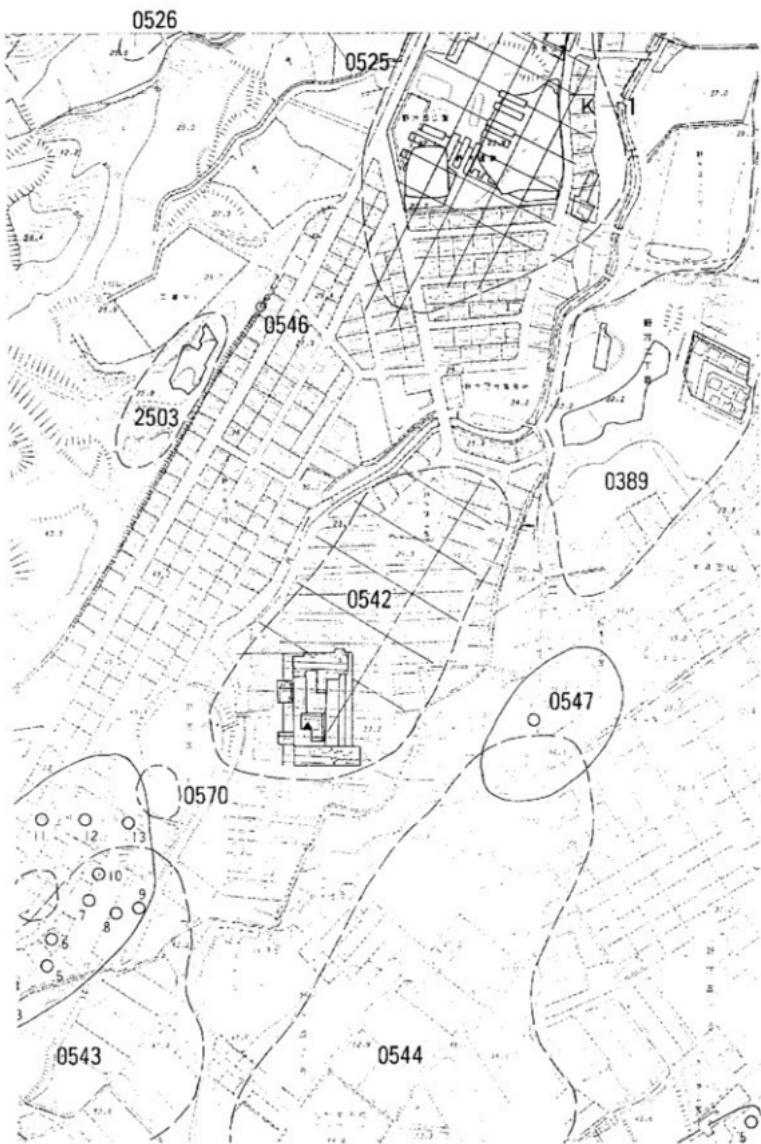


Fig. 2 野方塚原遺跡とその周辺 (縮尺 1/4,000) (0542が本遺跡)

1. 位置と環境 (Fig. 1, Fig. 2)

本遺跡は靈峰飯盛山の北麓に位置する。本遺跡を載く地形は飯盛山の扇状地である。本遺跡の西側には、叶ヶ岳があって、早良平野の西側を北流する十郎川の水源となっている。十郎川は農耕文化の黎明期より数多くの遺跡を育んできた。

農耕社会初期首長墓群の成立を見る吉武遺跡群。同遺跡群の吉武高木・同極渡遺跡がこれにあたる。また同高木遺跡には、城ノ越式期の大型建物をもっている。同大石遺跡は推定2,000基以上の喪棺墓を内包するものと考えられている。吉武遺跡群は国史跡に指定され、現在史跡整備のための調査研究委員会が設けられている。

また本遺跡の北側には野方中原遺跡があって、弥生時代後期から古墳時代前半期の集落跡を示している。野方塚原遺跡と対で語られる遺跡である。野方中原は国史跡で現在史跡公園化が図られている。

本遺跡の関連で語られるであろう遺跡に宮の前遺跡がある。弥生時代後期から古墳時代初頭の墳墓群である。

その他湯納遺跡や拾六町ツイジ遺跡の弥生時代終末期の遺跡や羽根戸原古墳群、野方觀進古墳群、広石古墳群等枚挙に遑がない程で、福岡市文化財分布地図に賄やかさを博している。

2. 調査経過

福岡市の早良平野西部、十郎川の西岸、生の松原から野方地区にかけて、昭和40年代後半から同50年代前半は一般住宅宅地造成の最盛期を迎える。本遺跡もその余波を受ける事になる。

本遺跡の委託者は福岡県勤労者住宅生活協同組合である。本組合は、本遺跡開発以前、本遺跡北側に位置する野方中原遺跡の史跡指定に、大幅な設計計画変更で同意された組合である。文化財保護の理念にご理解を戴きそのような局面を乗り切られた組合でもある。記して、感謝申し上げたい。

本組合が本遺跡発掘調査の申請を提出されたのが、昭和49年の早い時期である。福岡市の調査体制は公共事業に対応する事で、精一杯である。この局面打開で図られたのが調査会方式である。明治大学考古学研究室の杉原莊介教授のご理解を得、大学生の石川むつみ様に調査を受託して戴いた訳である。調査開始は申請の日から1年有余を経た、昭和50年3月4日である。そして調査終了は同年4月30日である。

野方塚原遺跡調査会

委託者——福岡県勤労者住宅生活協同組合

受託者——野方塚原遺跡調査会

協力——福岡市教育委員会

会長 石川むつみ(和田)、主任 折尾 學

調査員 武藤和子(高橋)、千田利明、坪田正裕

2. 調査経過

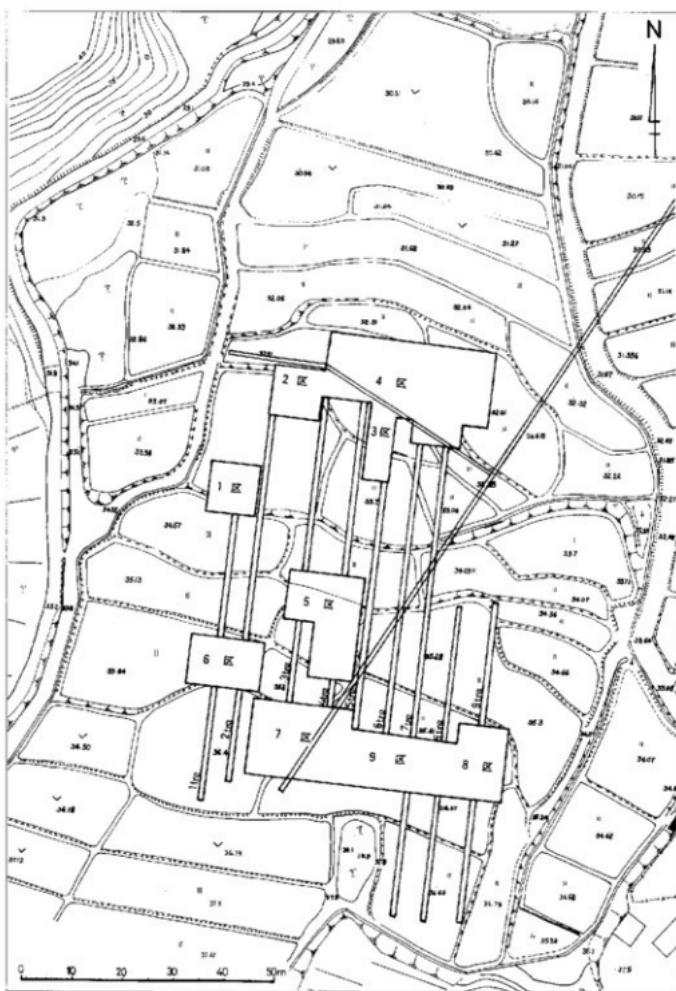


Fig. 3 調査区実測図（縮尺 1/1,000）
(2 区北端で第 1 号墓棺出土)

3. 調査の概要 (Fig. 3)

靈峰飯盛山の北麓に十郎川に注ぐ小河川2流が北流し、その2流の小河川に挟まれた扇状地が、調査対象地である。調査対象地を南東から北西方向に試掘溝を設け、そのトレンチの中央部分から北東にトレンチを設けた。そのトレンチ調査の結果、遺構遺物の密度の濃い部分に、幅10m間隔で9本のトレンチを南北方向に設け掘削した。その南北9本のトレンチで得られた調査結果をさらに精査したのが9地点の発掘区である。

1区——第2号腰棺墓。成人用。弥生時代終末期西新町式土器。

2区——第1号腰棺墓。成人用。弥生時代終末期西新町式土器。

内面朱塗。獸帶鏡片出土。

3区——現代耕作による集石あり。

4区——5基の石棺墓。

第1・2号が小児用。第3号から第5号までが成人用。

第3号石棺墓に棺外供獻土器があつて墓域を示す。

第4号石棺墓に棺外供獻土器があつて墓域を示す。

5区——第3号腰棺墓。小児用。弥生時代終末期西新町式土器。

棺外に供獻用高杯形土器3個あり。

6区——遺構なし

7区——8基の石棺墓。

第9、12、13号が成人用。第7、8、10、11号が小児用。第6号が不明。

8区——焼土遺構。縄文時代か?

9区——石棺墓域供獻用高杯形土器3個。弥生時代終末期西新町式土器。

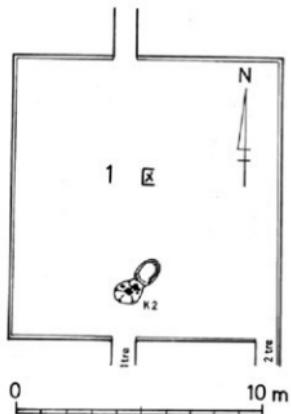


Fig. 4 第1区実測図(縮尺1/200)

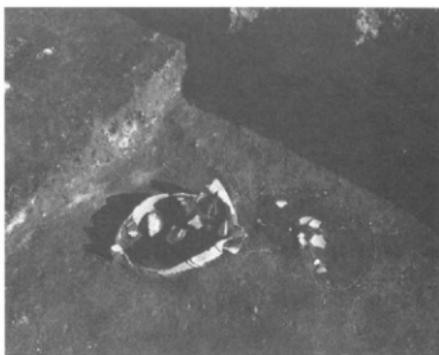


Fig. 5 第1区遠景 (Ph. 1)

3. 調査の概要

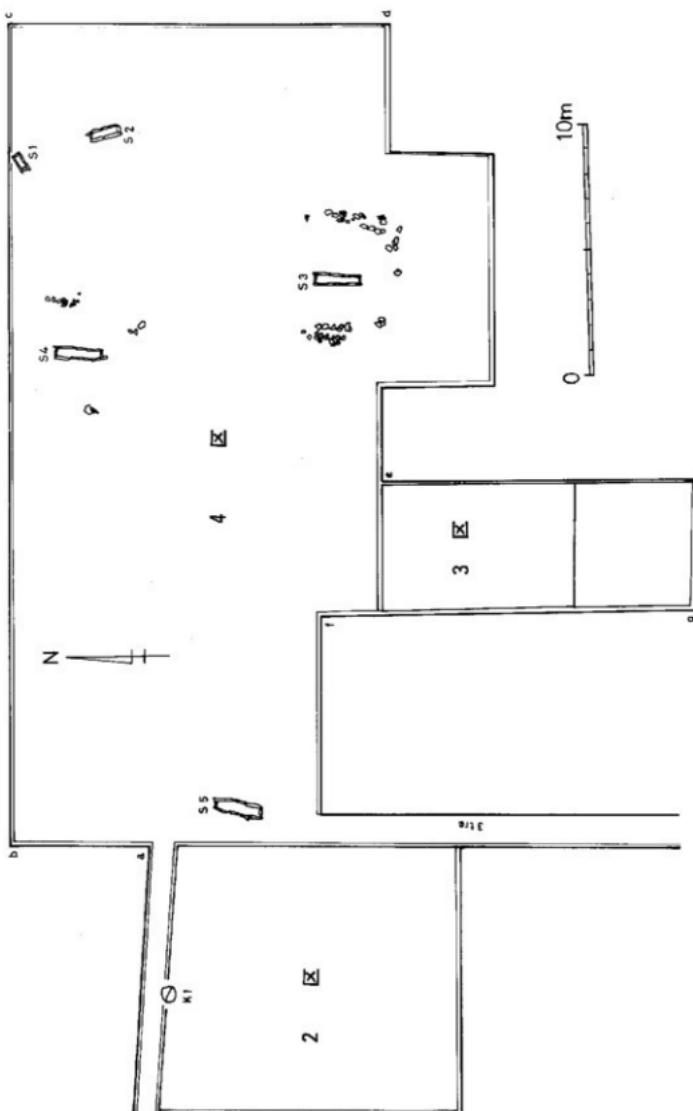


Fig. 6 第2・3・4区実測図 (縮尺1/200)
(Kは雙棺、Sは石棺を表す)

3. 調査の概要

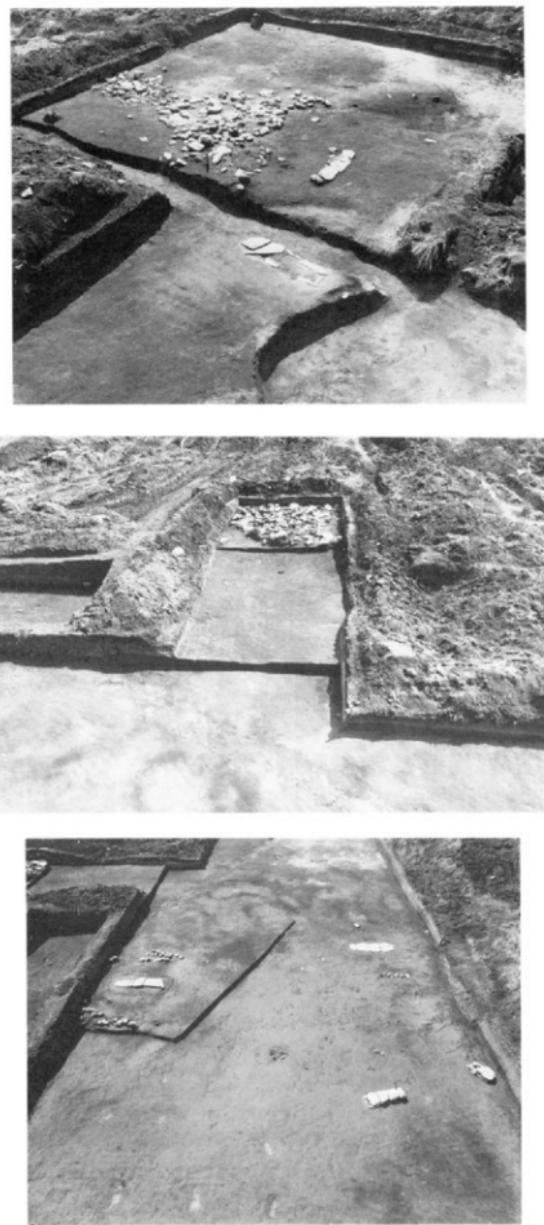


Fig. 7 第2・3・4区遠景（上から2・3・4区、Ph. 2）

3. 調査の概要

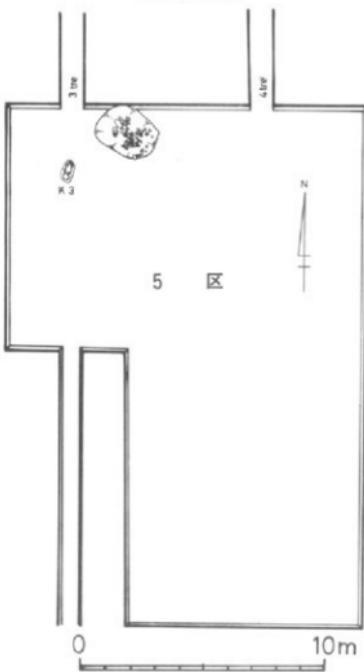


Fig. 8 第5区実測図

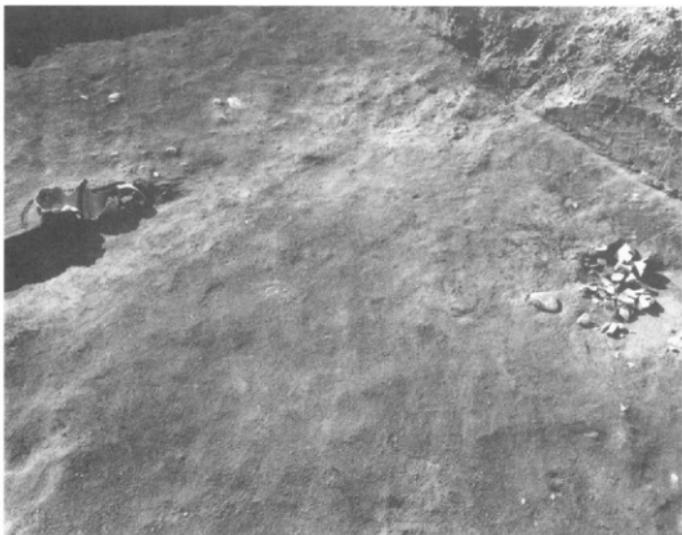


Fig. 9 第5区遠景 (Ph. 3)

3. 調査の概要

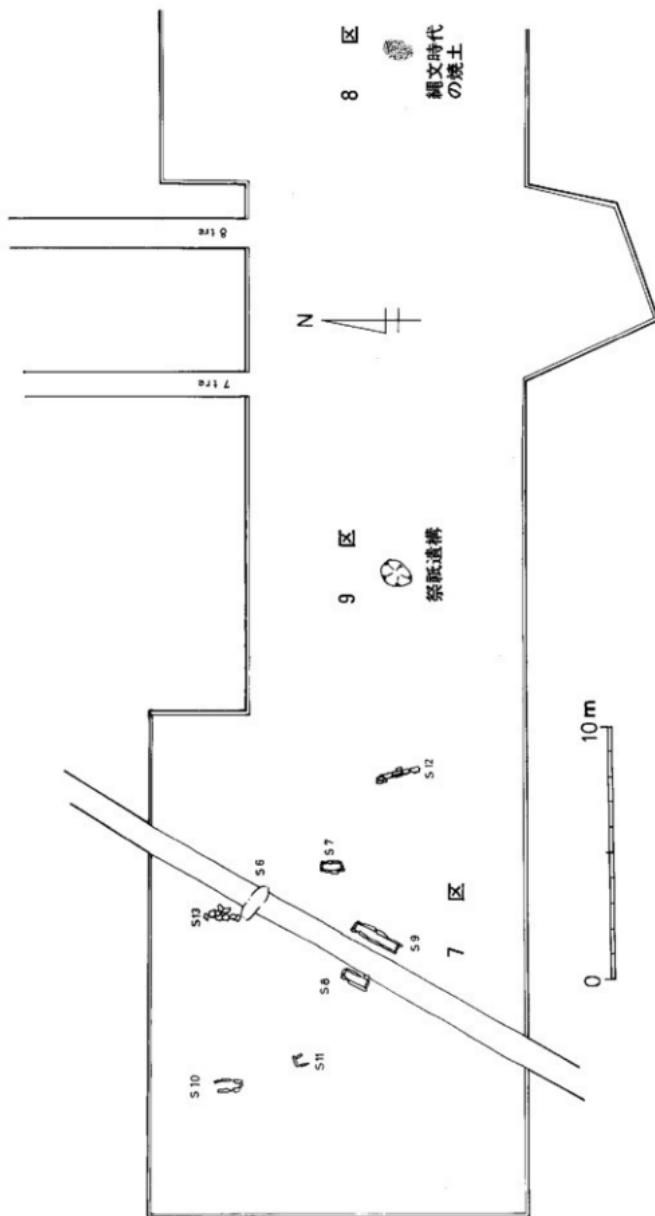


Fig. 10 第7・8・9区実測図

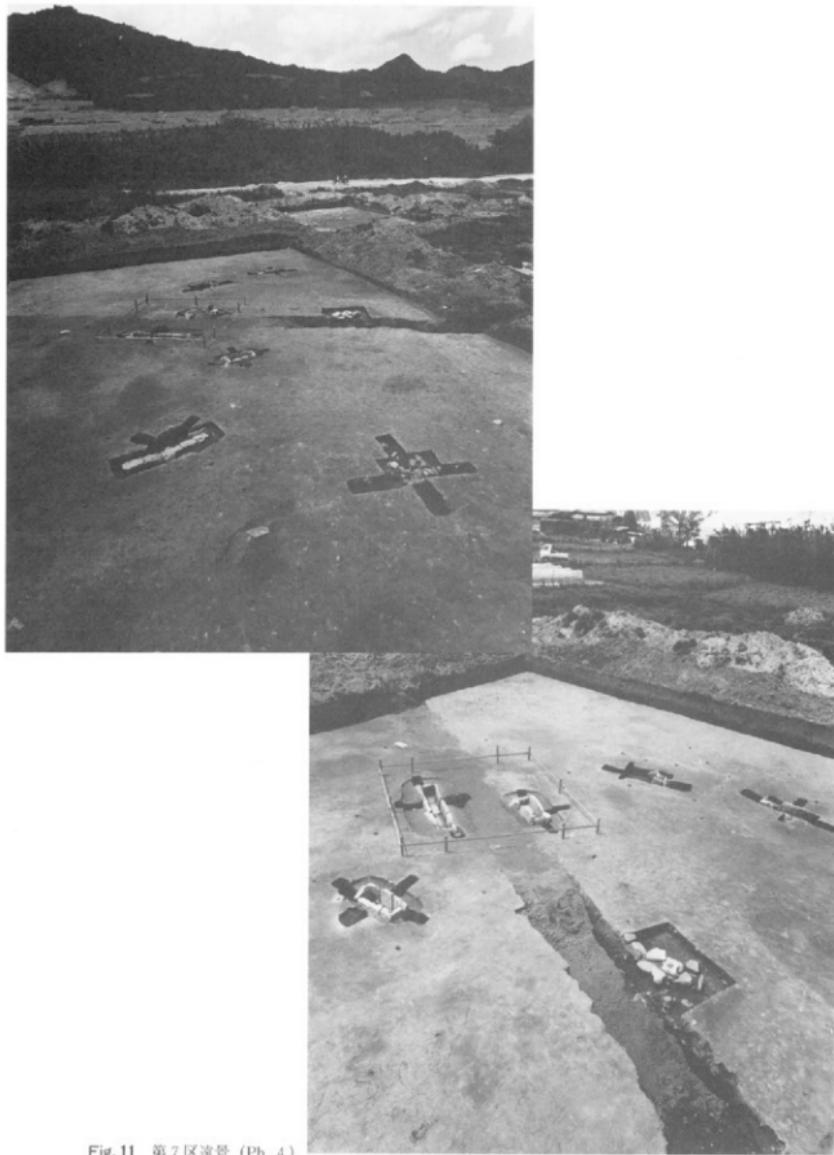


Fig. 11 第7区遠景 (Ph. 4)

4. 遺構と遺物

(1) 蔡 棺 墓

遺跡全域で3基の蔡棺墓の検出を見る。

第1号蔡棺墓は2区の北端で検出した。機械掘削の試掘により、遺構の図化はできなかったが、急傾斜の埋置状態を示していた。棺内は朱塗りで棺片付近で朱の付着した獸帶鏡片を出土している。恐らく副葬品であろう。鏡片は2片あって、1片は1.8センチ×4.2センチ、2片は1.9センチ×3.1センチ。鏡片端の研磨は見られない。復元鏡径は約11センチである(Fig. 12, 13, 20)。

第2号蔡棺墓は1区の南隅で検出。第1号と同じく成人用である。蔡棺埋納のための掘り方はそう広くなく、埋置傾斜は1号に比べて急傾斜をとらない。合口式で下部が蔡形土器、上部が壺形土器である。(Fig. 4, 5, 14, 15, 16, 21)。

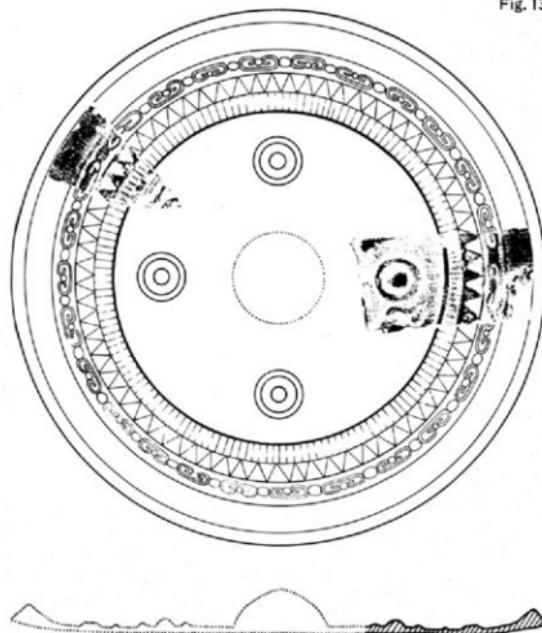


Fig. 12 1号蔡棺墓出土獸帶鏡拓影(縮尺 実大)



Fig. 13 獣帶鏡片 (Ph. 5)

1号、2号蔡棺の形態を観察する。両方の下部形態は蔡形土器で、楕円の胴部に外半する口縁部を有し、外面を丁寧な縱、横、斜め方向の刷毛調整を行ない、口唇部は斜十字の刻目を等間隔に施し、口縁下及び胴部の突帯には斜め方向で等間隔の刻目を施している。下部内面は口縁から胴部上半にかけて丁寧な刷毛調整がなされている。1号蔡棺墓上部形態は蔡形土器で胴部中位を打欠き、土器の調整は下部蔡形土器と同様の手法をとる。2号蔡棺墓の上部形態は壺形土器で朝顔状に大きく

(1) 瓦 棺 墓

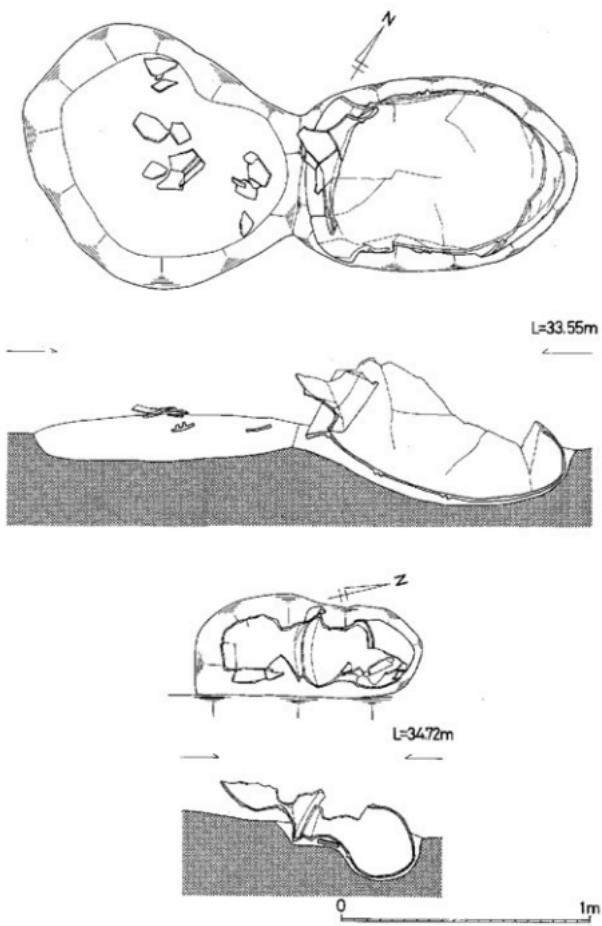


Fig. 14 2号(上)・3号(下) 瓦棺墓実測図(縮尺1/20)



Fig. 15 2号甕棺墓 (Ph. 6)



Fig. 16 3号甕棺墓 (Ph. 7)

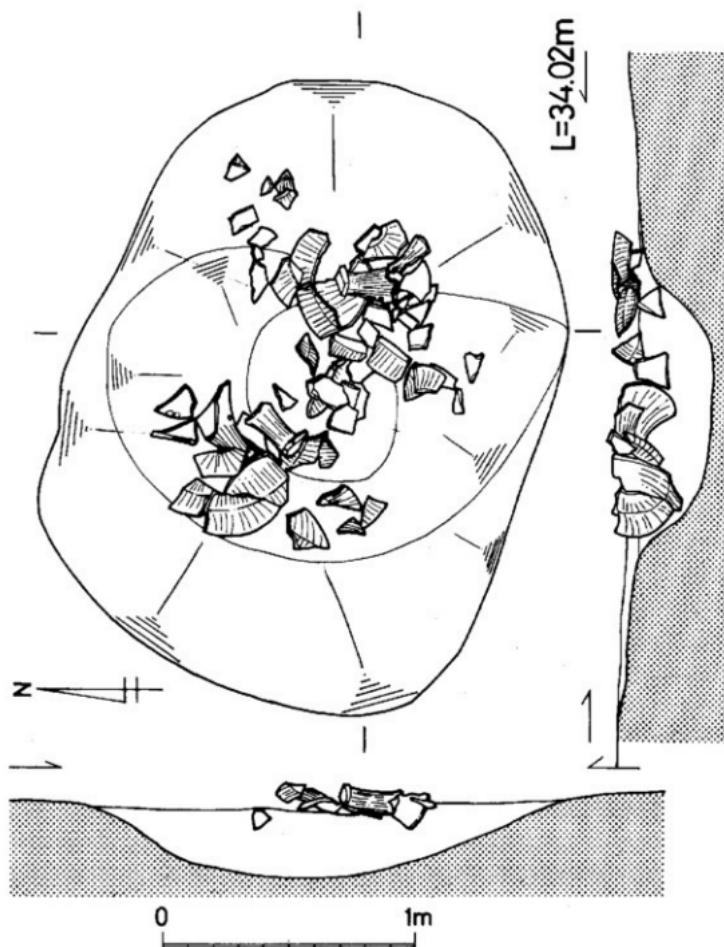


Fig. 17 3号豐棺墓祭祀造構



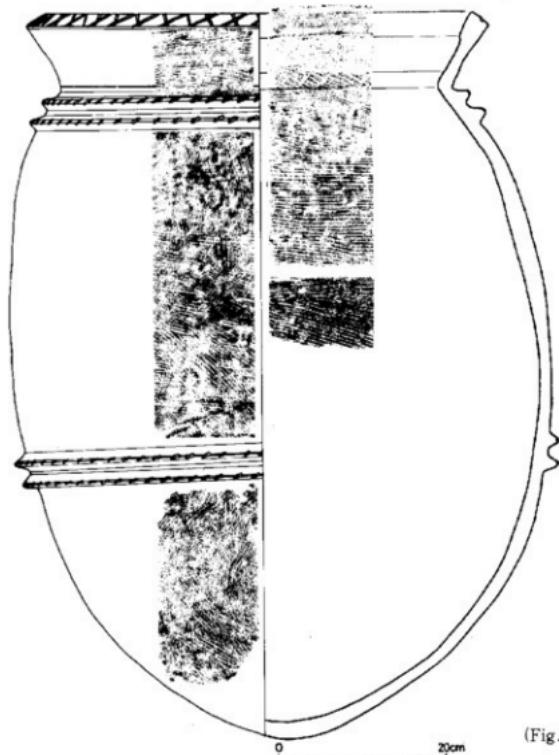
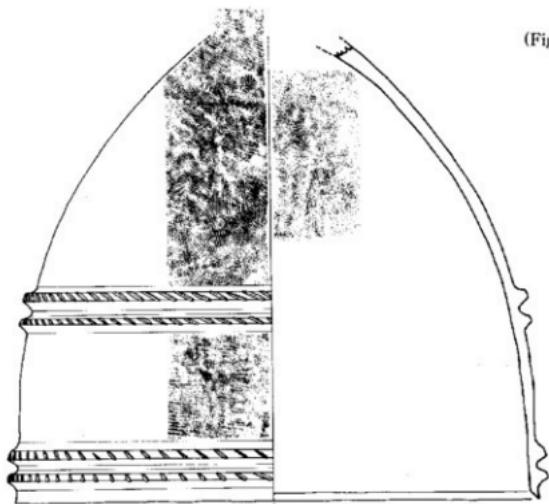
Fig. 18 3号甕棺墓と祭祀造構 (Ph. 8)



Fig. 19 3号甕棺墓祭祀造構 (Ph. 9)

(1) 墓 棺 盖

(Fig. 20 上)



(Fig. 20 下)

Fig. 20 1号墓棺实测图 (缩尺 1/6)

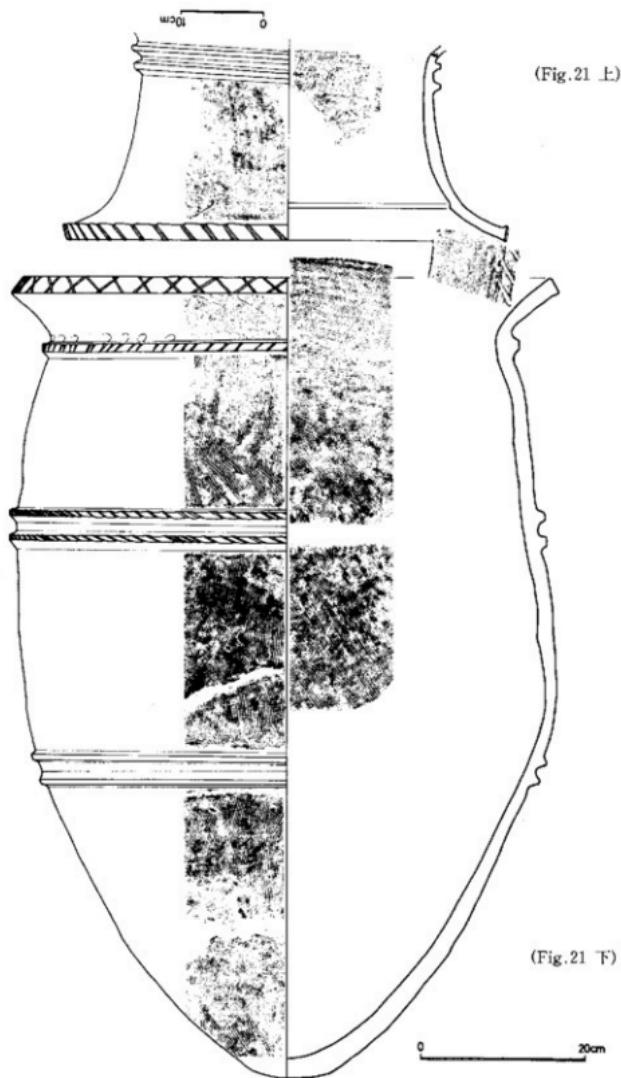
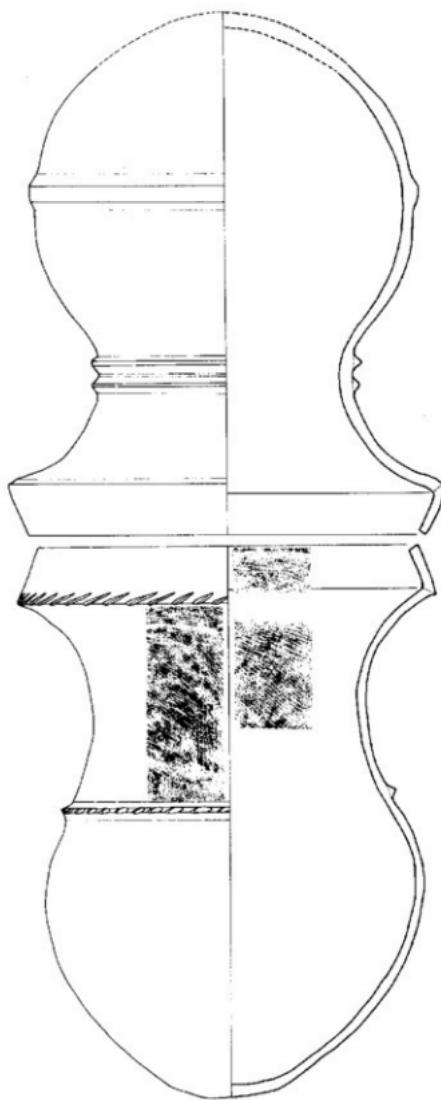


Fig. 21 2号墓室実測図（縮尺1/6）

(Fig. 22 上)



0 10cm

(Fig. 22 下)

Fig. 22 3号豐棺実測図 (縮尺 1 / 4)

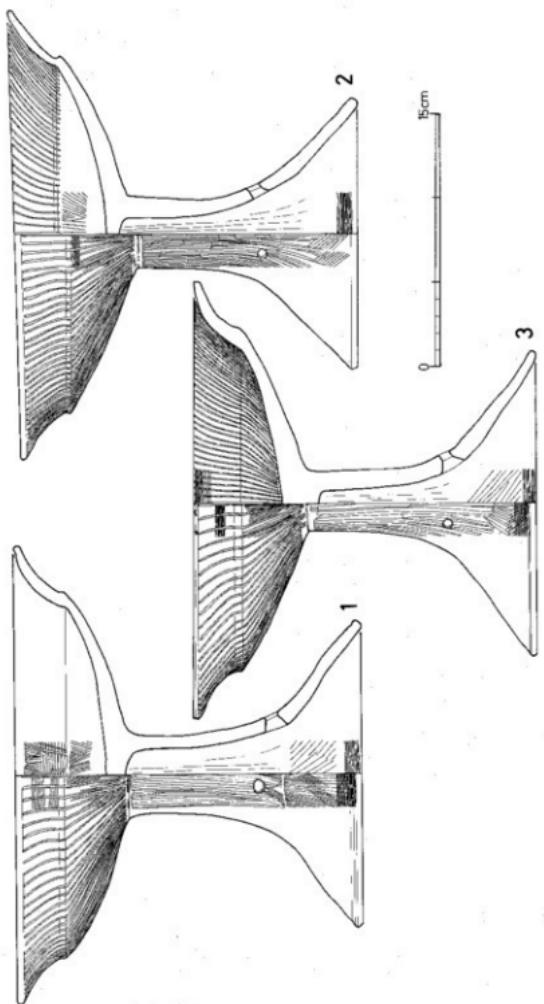


Fig. 23 3号型棺祭用高杯

開く口縁をもち、内外面に丁寧な刷毛調整が行なわれ、口縁部に斜め方向等間隔の刻目を施している (Fig.20, 21)。孰れにしても、1・2号甕棺墓の形態は弥生時代後期後半の西新町式土器に比定されるものである。

5区北端の3号甕棺墓は小児用で、高杯形土器3個の供獻された祭祇遺構を伴うものである (Fig. 8, 9, 14, 15, 17~19, 23)。埋置される傾斜は上部形態を上位に緩傾斜をとる。祭祇遺構の供獻高杯形土器3個は破片の集合体で検出されたが、完形の姿で供獻されていたと9区祭祇遺構の供獻高杯形土器3個の出土状態の観察から考えたい (Fig. 61~63)。

3号甕棺墓は2個の壺形土器で構成され、椭円の球形に内反りの頸部、そして口縁部を大きく観角に内反させ、頸部と口縁部の接合部をくの字に表現するもので、底部は平底の名残りを有つ丸底調整を行なうものである。調整の痕は下部壺形土器の口縁部の内外面に斜方行の刷毛調整痕を見る (Fig. 22)。

祭祇遺構供獻高杯形土器3個は均整のとれた優品である。硬質の胎土を精選し、表面を丁寧に研磨し、杯部表面を脚部の付根から放射線状に暗文風に竪状圧痕が施文されている (Fig. 23)。

3号甕棺墓と祭祇遺構供獻土器3個は西新町式土器に比定されると考える。

(2) 石棺墓

紙面の都合上、第3号、第4号の石棺墓と9区所在の祭祇遺構供獻高杯形土器の説明に留まる事とする。

第3号石棺墓は全て棺材を粘板岩質系の板石を利用している。東西両側壁にそれぞれ2枚、南北小口壁にそれぞれ、1枚の板石を当て、床は南に比べ多少広くなった北面に1枚の板石が敷かれ、恐らく遺体上半身の安置を意識した配置であろう。蓋石は三枚の板石が当てられている。特記すべきは、墓域と見られる領域に大小の礫を配置して、そこに壺形、高杯形土器等を供獻していることである。東西の断面見通図で石棺と礫及供獻土器の位置は若干石棺部が高くなっている、墳丘のあった可能性を垣間見るが、調査過程にその所見はない。なお内面には朱が全面に塗られていた。供獻土器は弥生時代後半期に比定されよう (Fig. 26~Fig. 35)。

第4号石棺墓は3号と同様全て棺材に粘板岩質系の板石を利用。東側壁3枚、西側壁4枚、南北小口1枚づつ、床面10枚、蓋に4枚の板石をそれぞれあてている。3号程ではないが、4号にも棺外に供獻土器があつて、3号と同じく墓域を考える上で参考となろう。土器様式は弥生時代後半に比定されよう (Fig. 36~Fig. 42)。

9区祭祇遺構供獻高杯形土器は据えられた状態で検出されている。弥生時代後半に比定されよう。 (Fig. 61~63)。

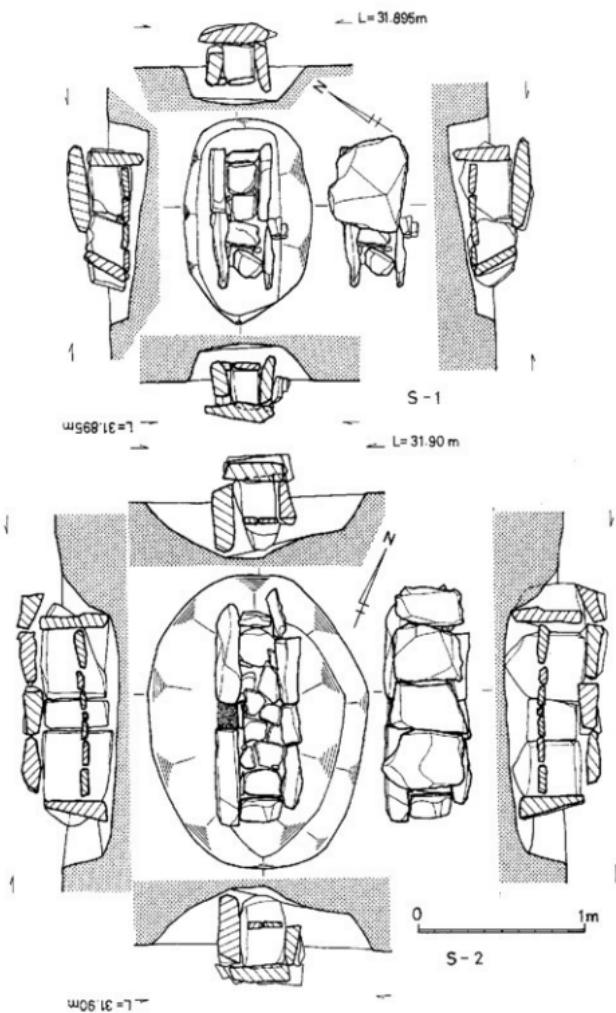


Fig. 24 1(上)・2号(下)石棺墓実測図(縮尺1/30)

(2) 石 棺 墓

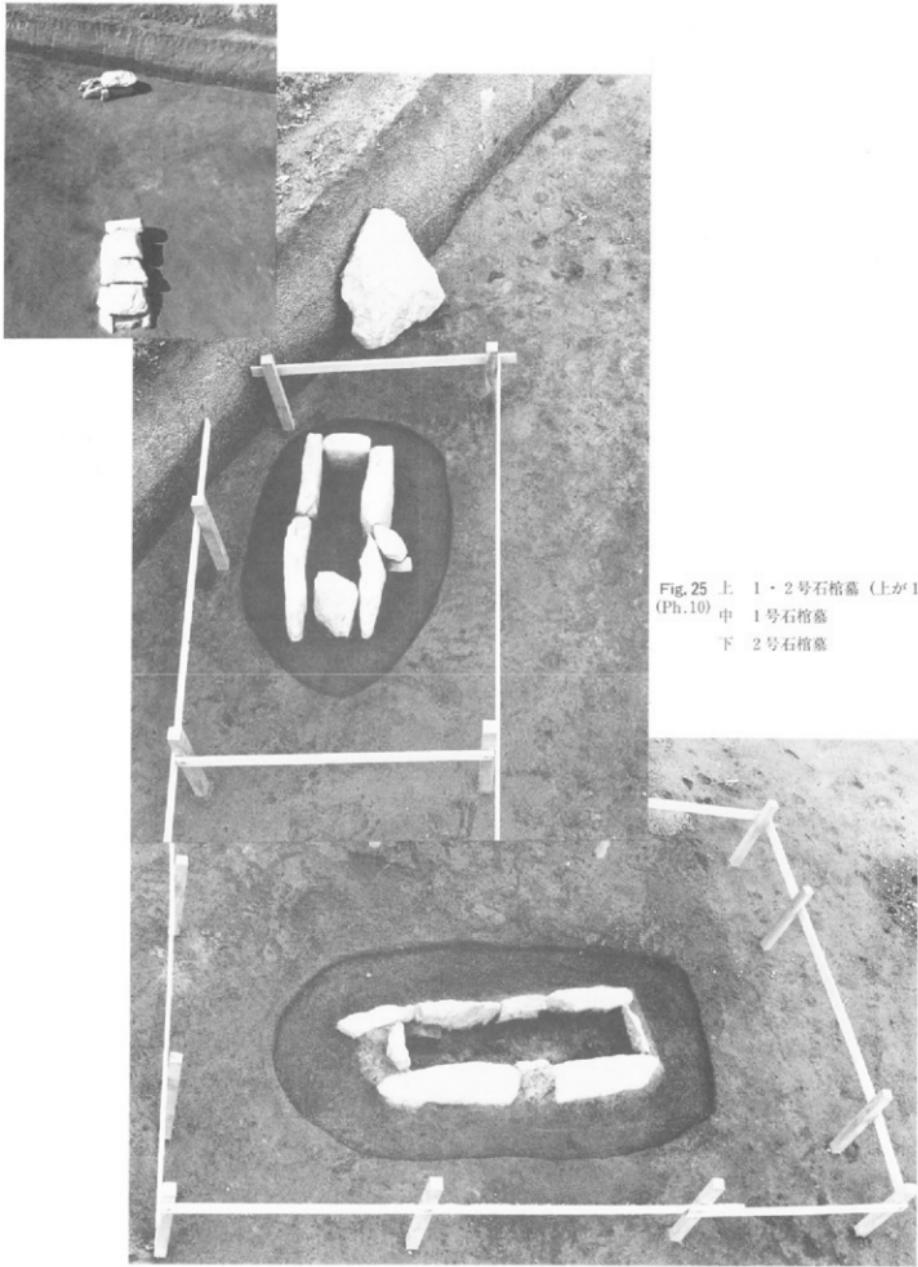


Fig. 25 上 1・2号石棺墓 (上が1号)
(Ph.10) 中 1号石棺墓
下 2号石棺墓

36



Fig. 26 3号石棺墓実測図（縮尺1/50）

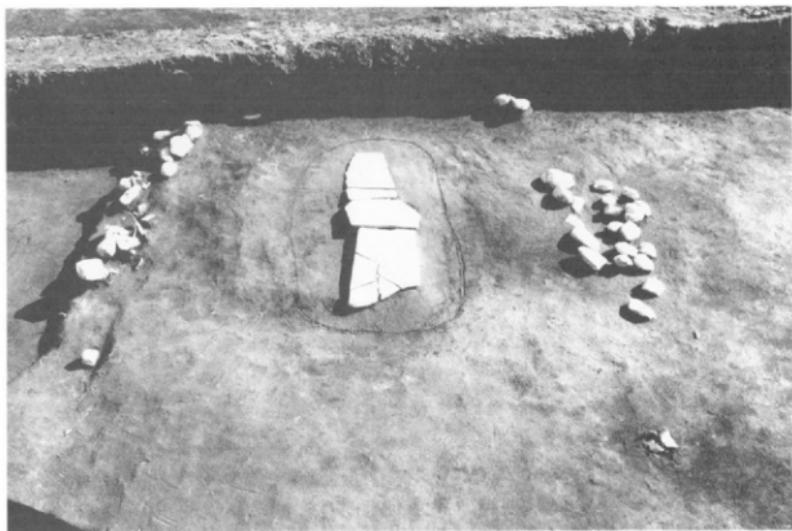


Fig. 27 3号石棺墓 (Ph. 11)

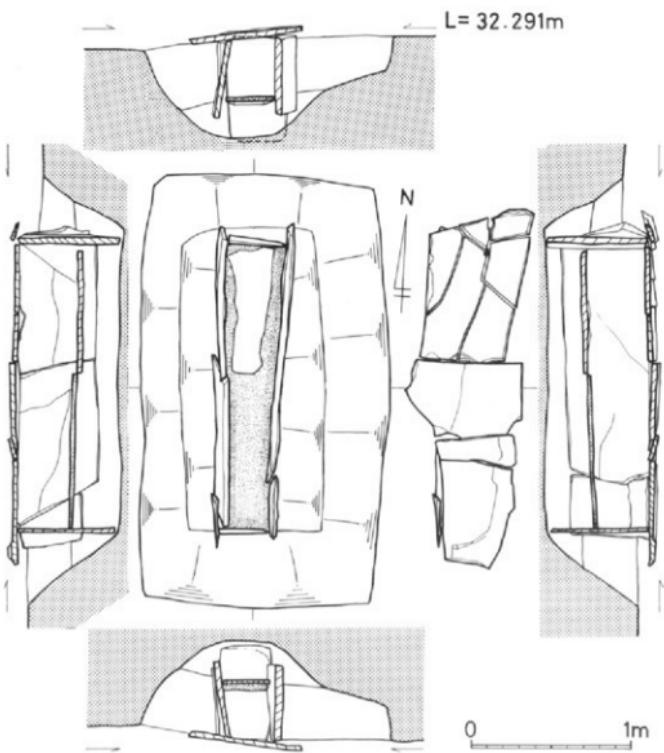


Fig. 28 3号石棺墓実測図 (縮尺 1/30)



Fig. 29 3号石棺墓
(Ph. 12)

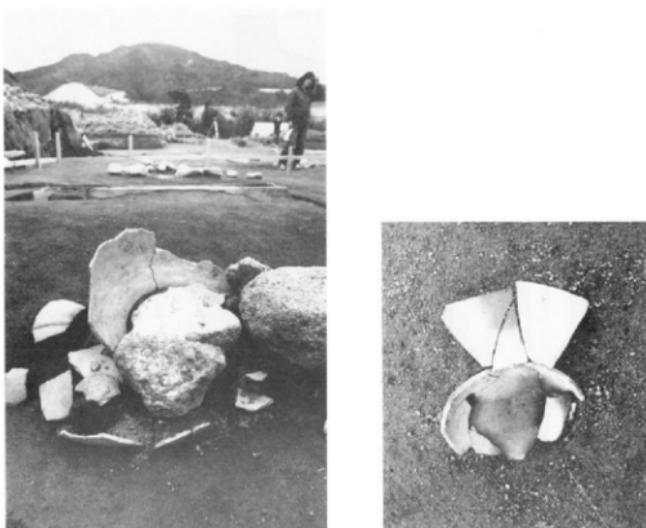


Fig. 30 3号石棺墓供獻土器 (Ph.13)

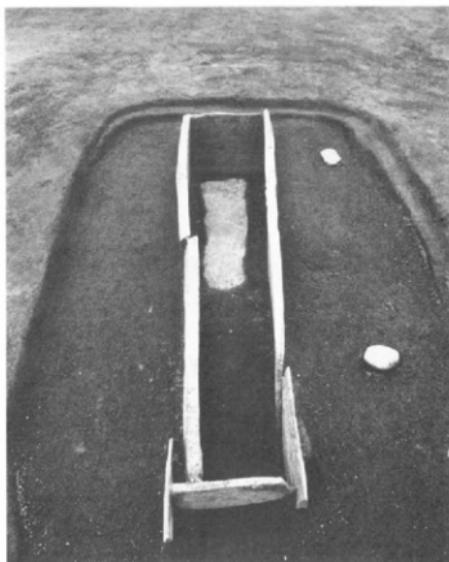


Fig. 31 3号石棺墓
(Ph.14)

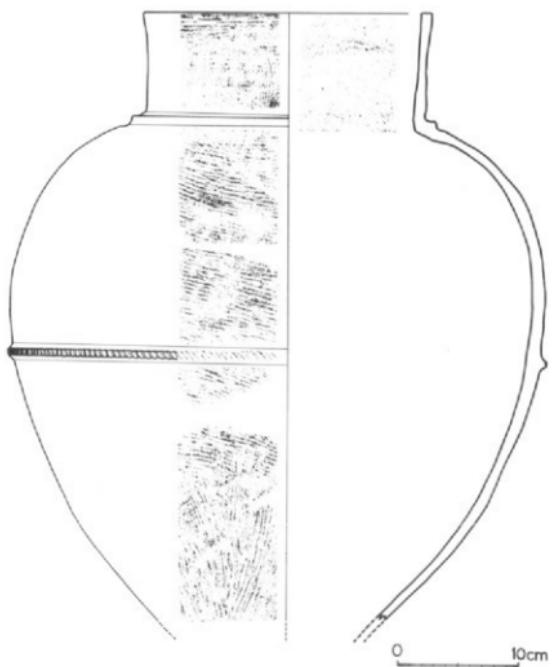


Fig. 32 3号石棺墓供献土器実測図 (縮尺1/4)



Fig. 33 3号石棺墓供献土器 (Ph. 15)

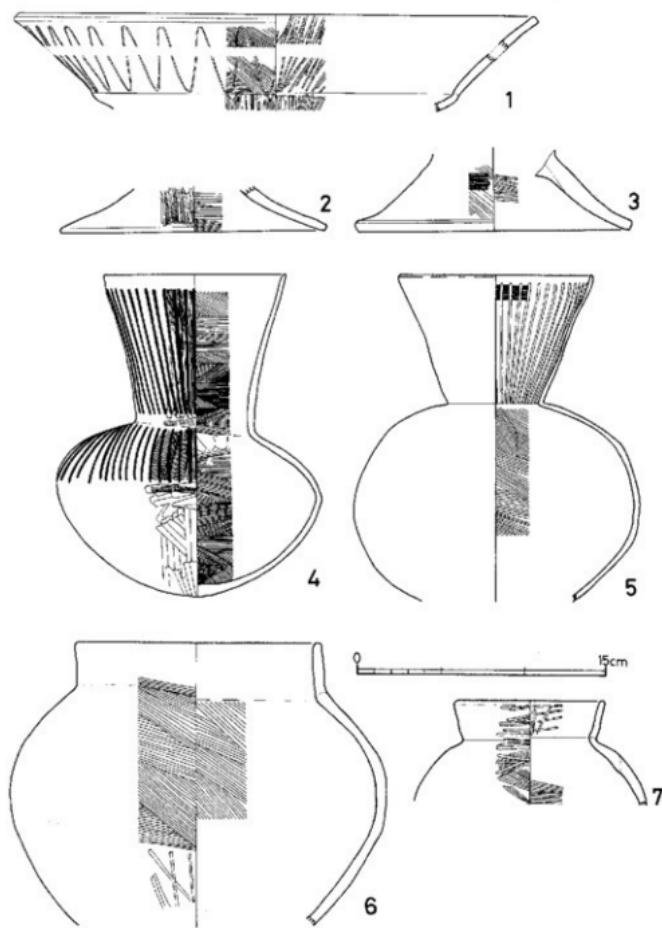


Fig. 34 3号石棺墓供献土器実測図（縮尺1/3）

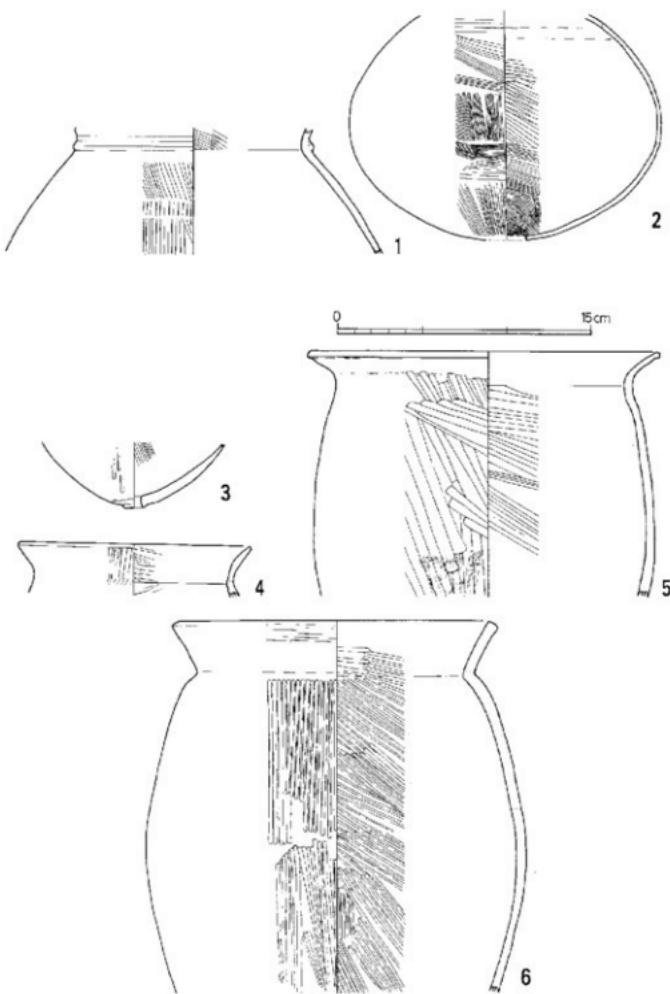


Fig. 35 3号石棺墓供紙上器実測図 (縮尺1/3)
(4-6は流れ込みか?)

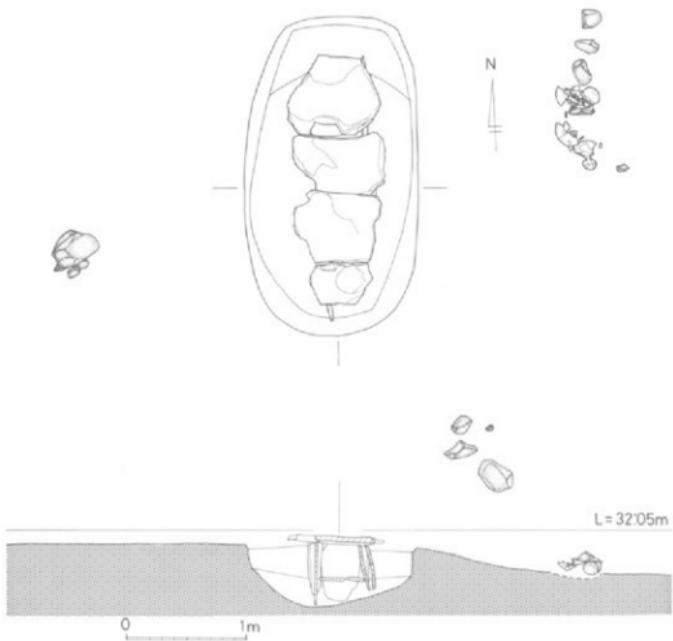


Fig. 36 4号石棺墓実測図(縮尺1/40)

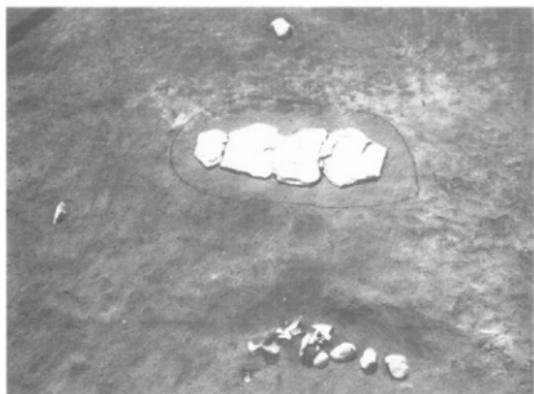


Fig. 37 4号石棺墓(Ph.16)

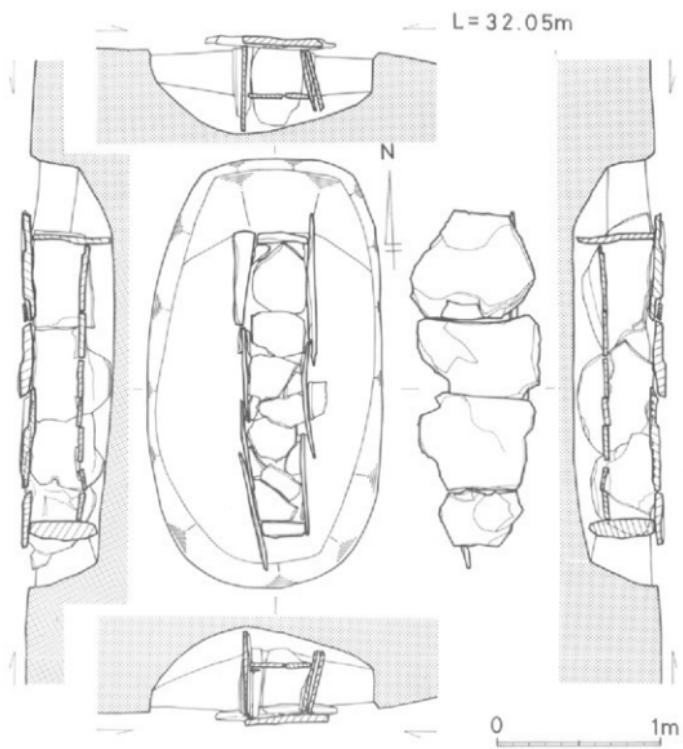


Fig. 38 4号石棺墓实测图 (缩尺 1/30)

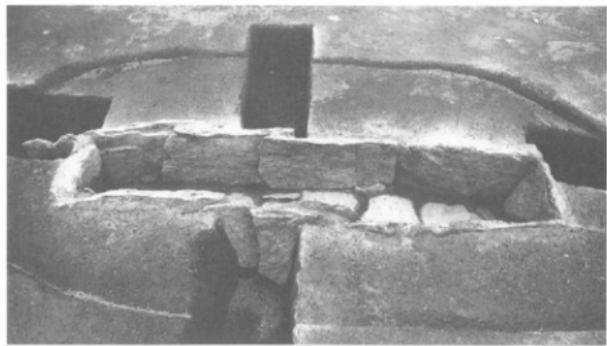


Fig. 39 4号石棺墓 (Ph. 17)

4. 遺構と遺物



Fig. 40 4号石棺墓と供獻土器 (Ph. 18)

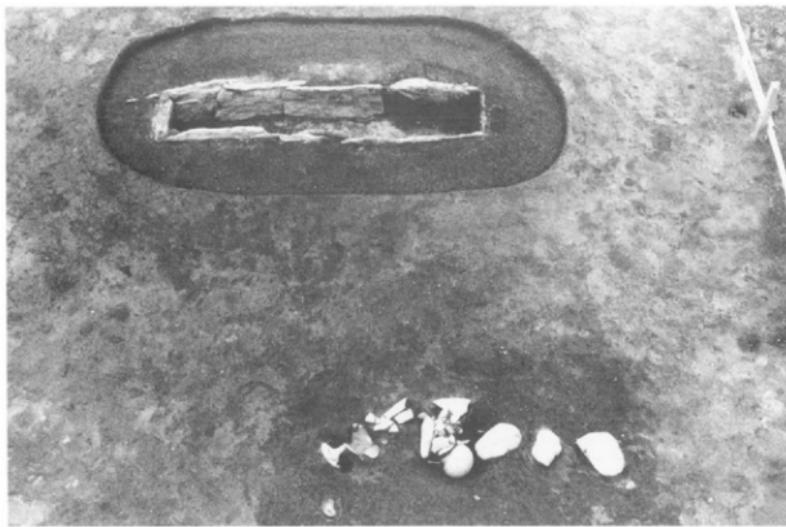


Fig. 41 4号石棺墓と供獻土器 (Ph. 19)

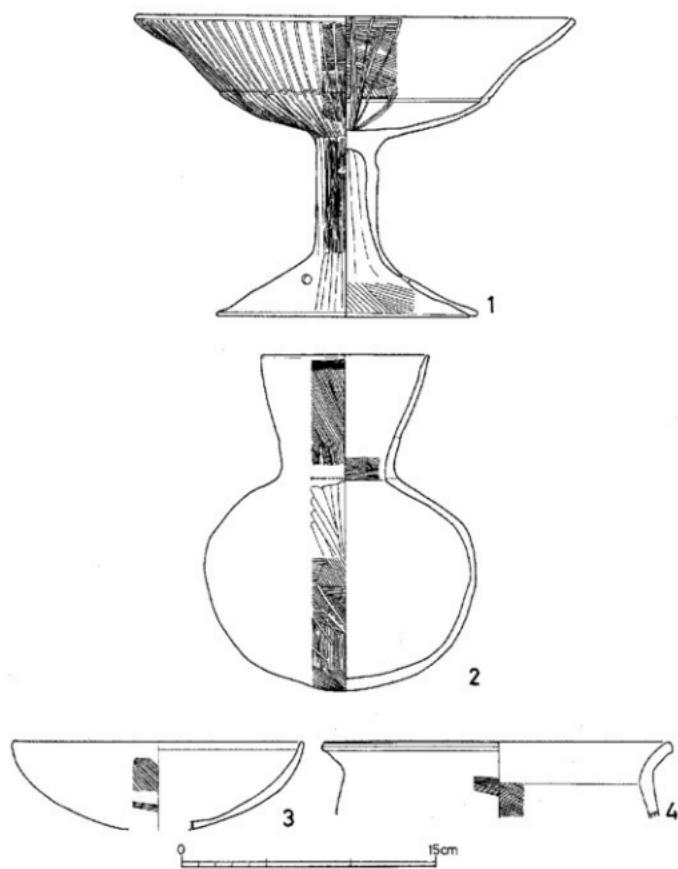


Fig. 42 4号石棺墓供獻土器実測図（縮尺1/3）

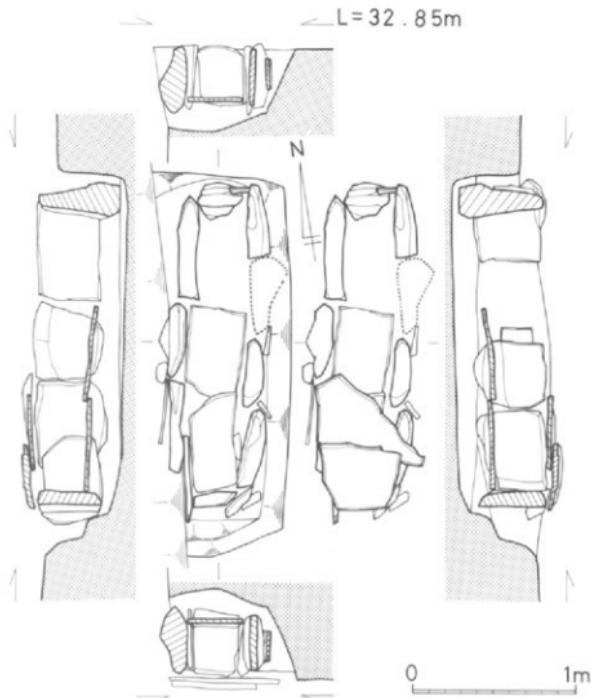


Fig. 43 5号石棺墓実測図（縮尺1/30）



Fig. 44 5号石棺墓遠景（Ph.20）

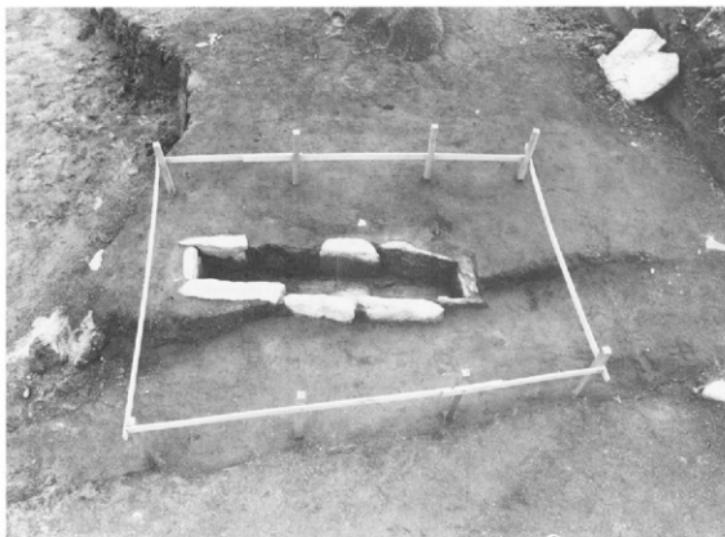


Fig. 45 5号石棺墓 (Ph.21)

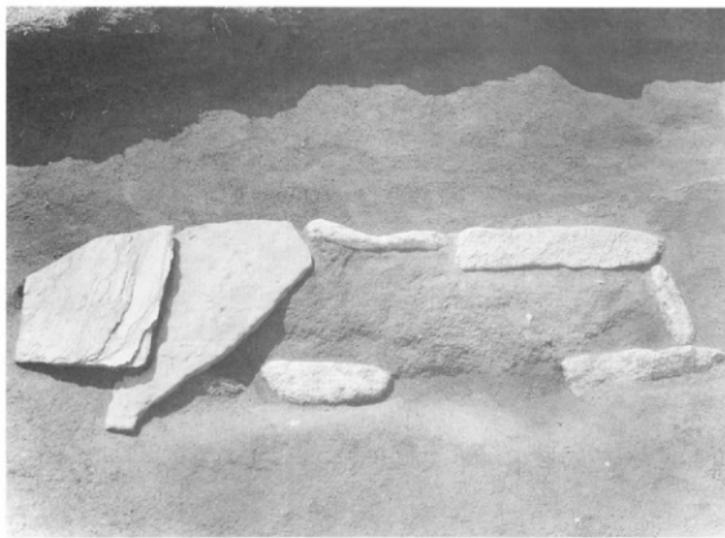


Fig. 46 5号石棺墓 (Ph.22)

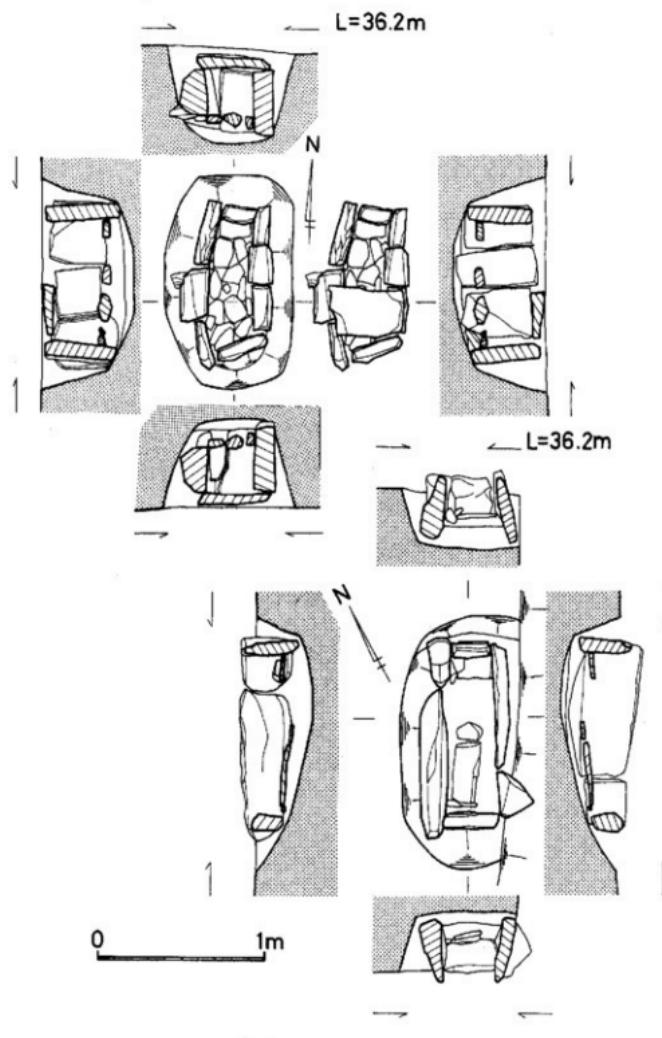


Fig. 47 7(上)・8号(下)石棺墓実測図(縮尺1/30)

(2) 石 棺 墓

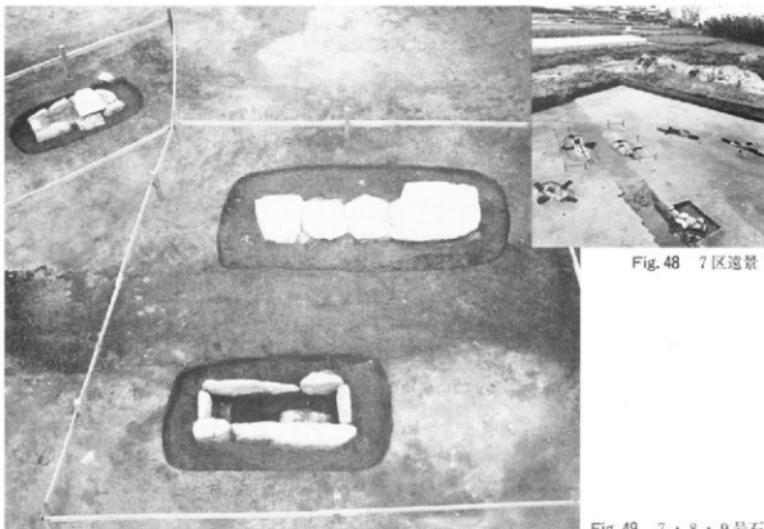


Fig. 48 7 区遠景 (Ph. 23)

Fig. 49 7 · 8 · 9 号石棺墓
(Ph. 24)

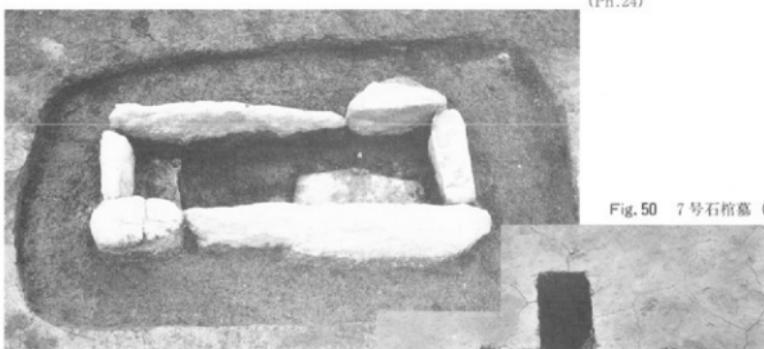
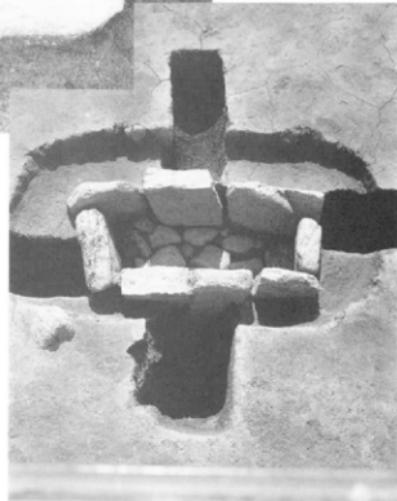


Fig. 50 7 号石棺墓 (Ph. 25)

Fig. 51 8 号石棺墓 (Ph. 26)



4. 造構と遺物

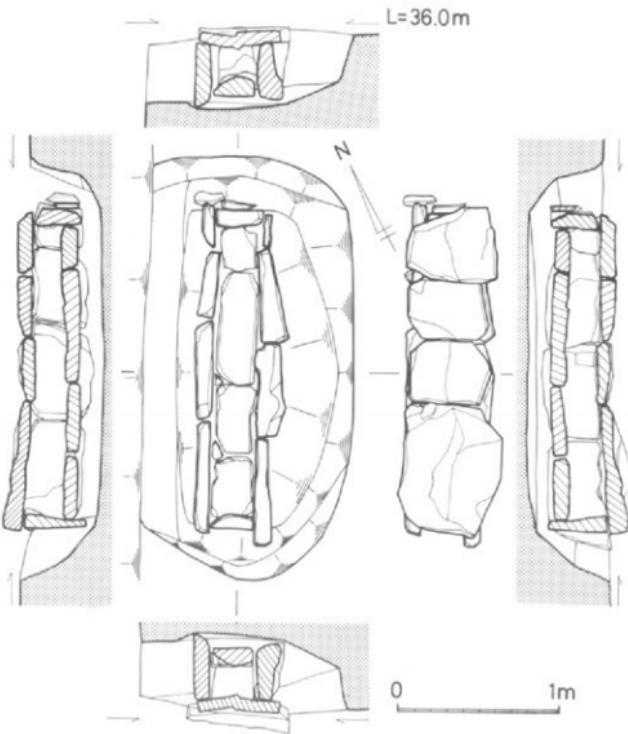


Fig. 52 9号石棺墓実測図（縮尺1/30）



Fig. 53 9号石棺墓 (Ph.27)

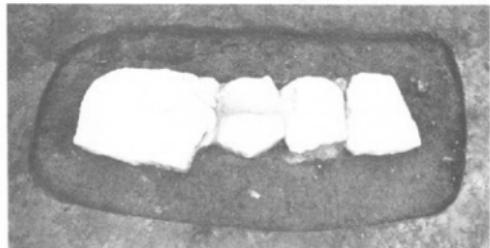


Fig. 54 9号石棺墓 (Ph.28)

(2) 石 棺 墓

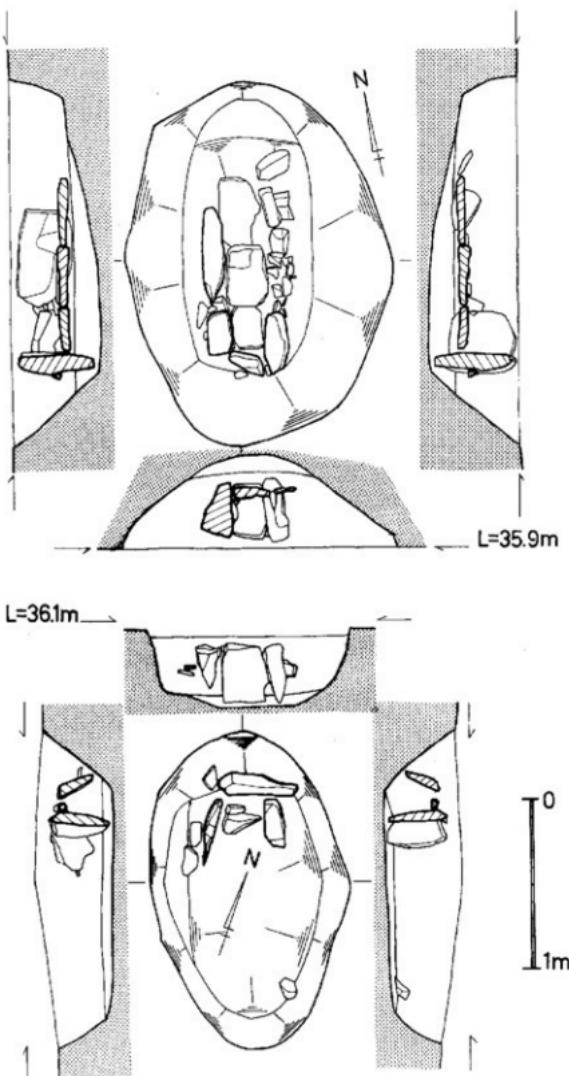


Fig. 55 10(上)・11号(下)石棺墓実測図 (縮尺 1/30)



Fig. 56 10号石棺墓 (Ph. 29)

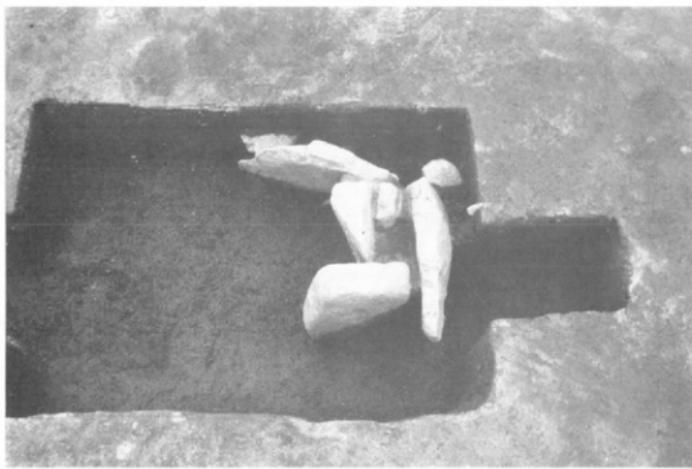


Fig. 57 11号石棺墓 (Ph. 30)

(2) 石棺墓

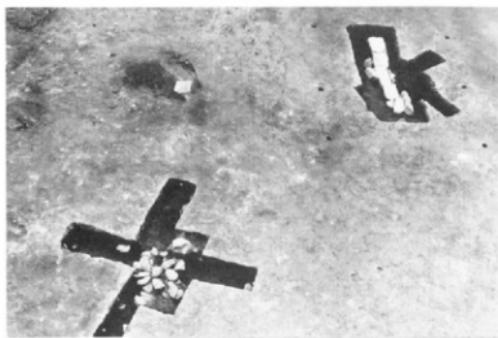


Fig. 58 9区遠景 (Ph. 31)

(Ph. 32)
Fig. 59 13号石棺墓 ?

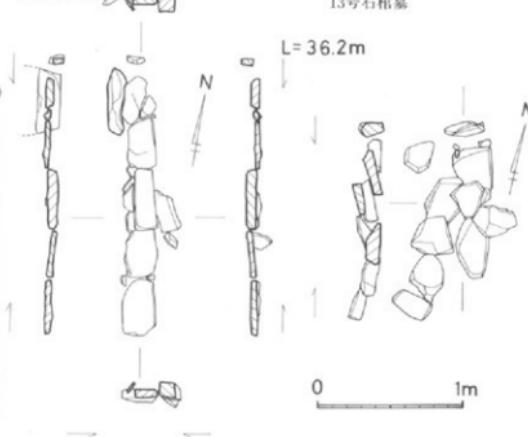
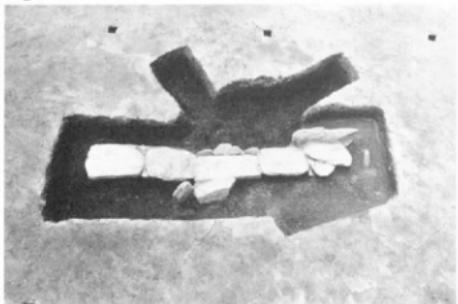


L = 36.2m

12号石棺墓

13号石棺墓

Fig. 60 12号石棺墓 (Ph. 33) と 12・13号石棺墓実測図 (1/30)



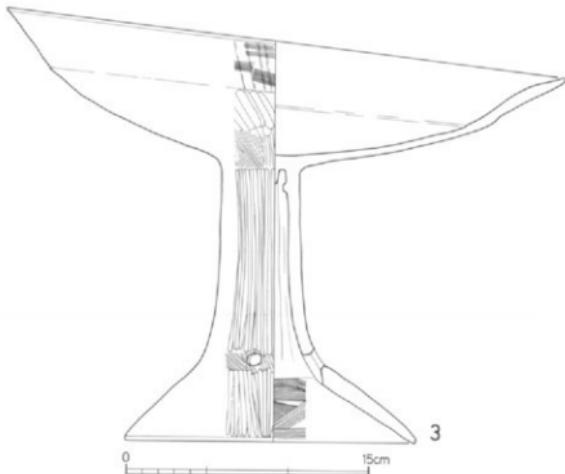


Fig. 62 9区祭祀造構土器実測図（縮尺1/3）
(その3)

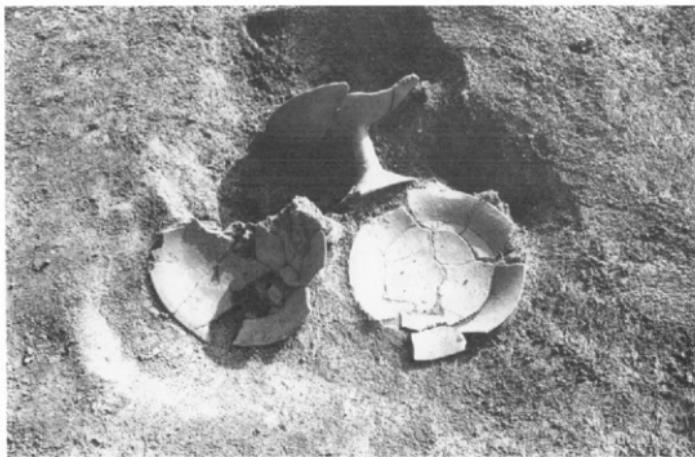


Fig. 61 9区祭祀造構 (Ph. 34)

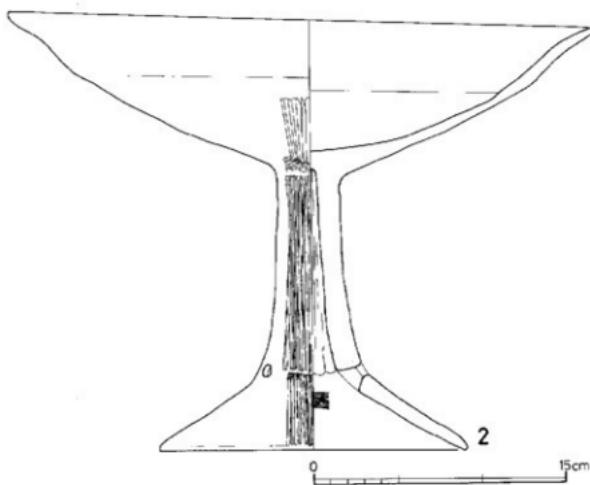
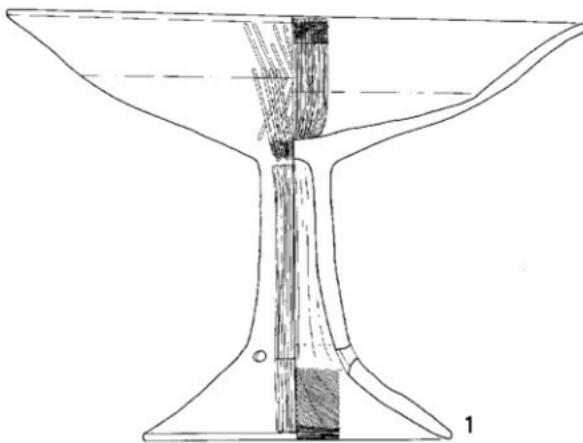


Fig. 63 9区祭祀遺構出土土器実測図（縮尺1/3）
(上 その2、下 その1)



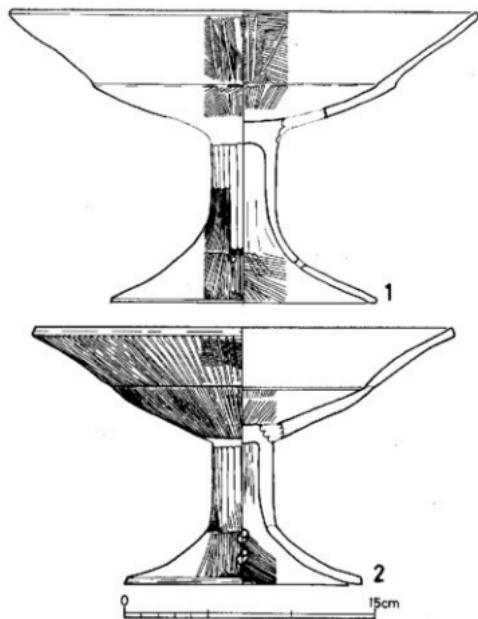


Fig. 64 6号石棺墓供献土器実測図（縮尺1/3）
(1が6号石棺墓、2が5区出土)

(3) その他の遺物

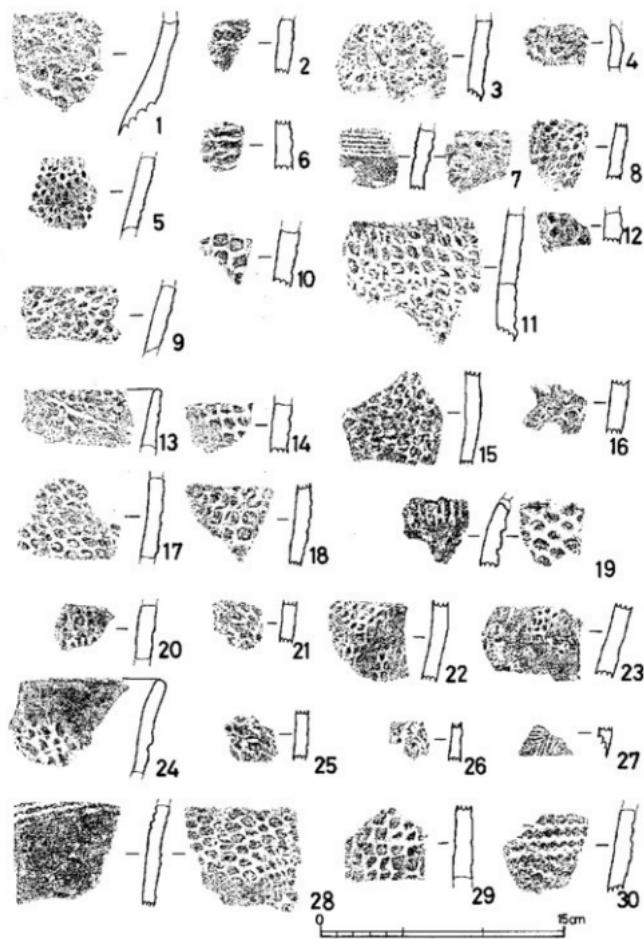


Fig. 65 出土押型文土器拓影（8区内焼土及びその近辺出土）
(縮尺 1/3)

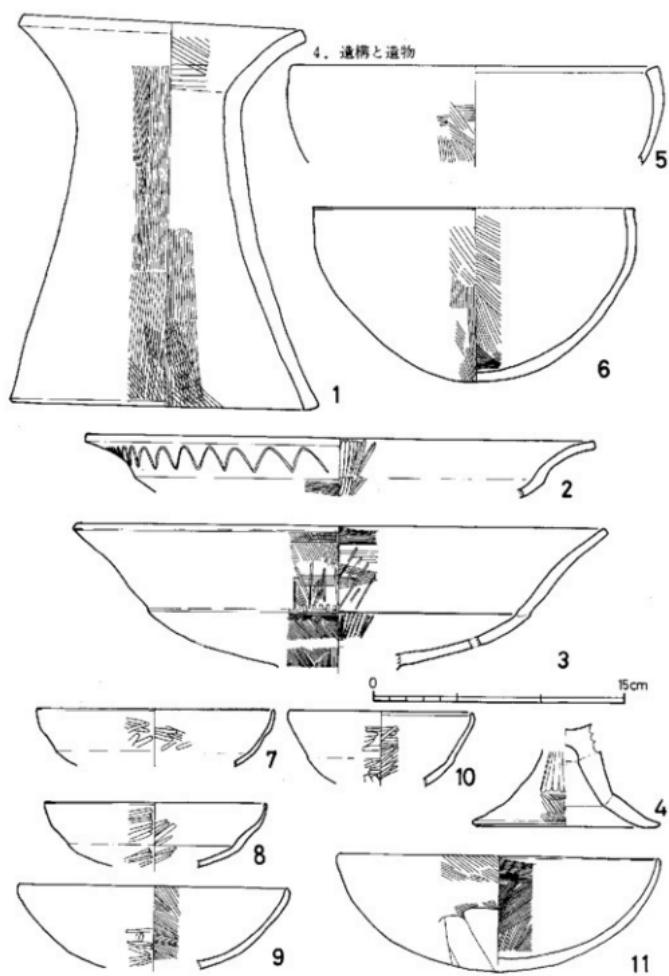
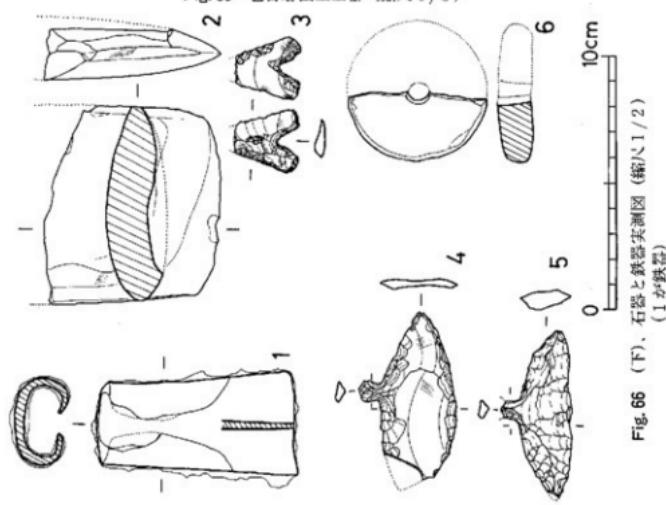


Fig. 66 包含層出土土器 (縮尺 1 / 3)



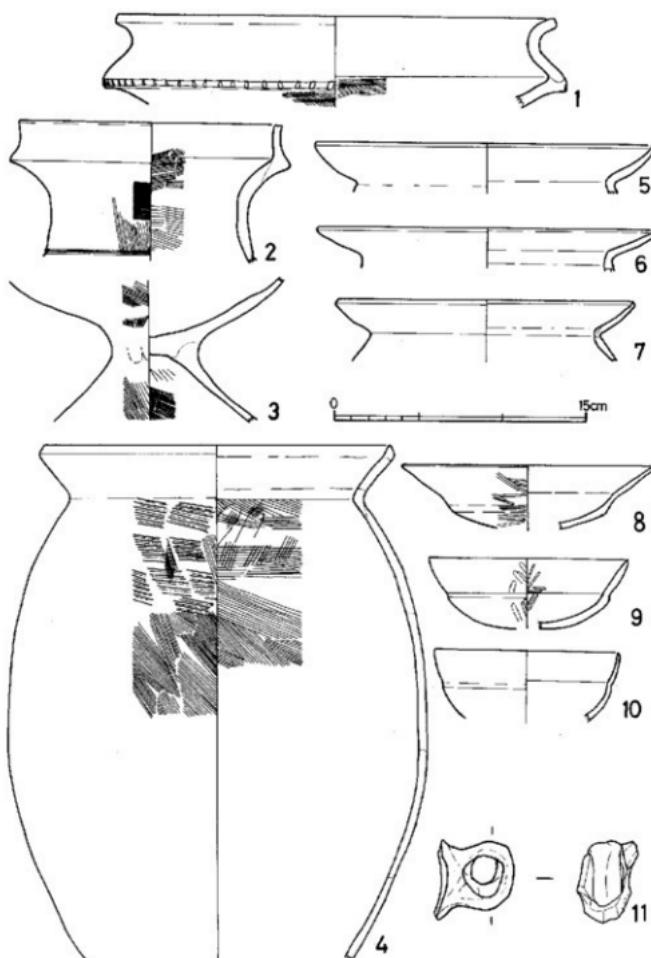


Fig. 67 包含層出土土器 (縮尺 1 / 3)

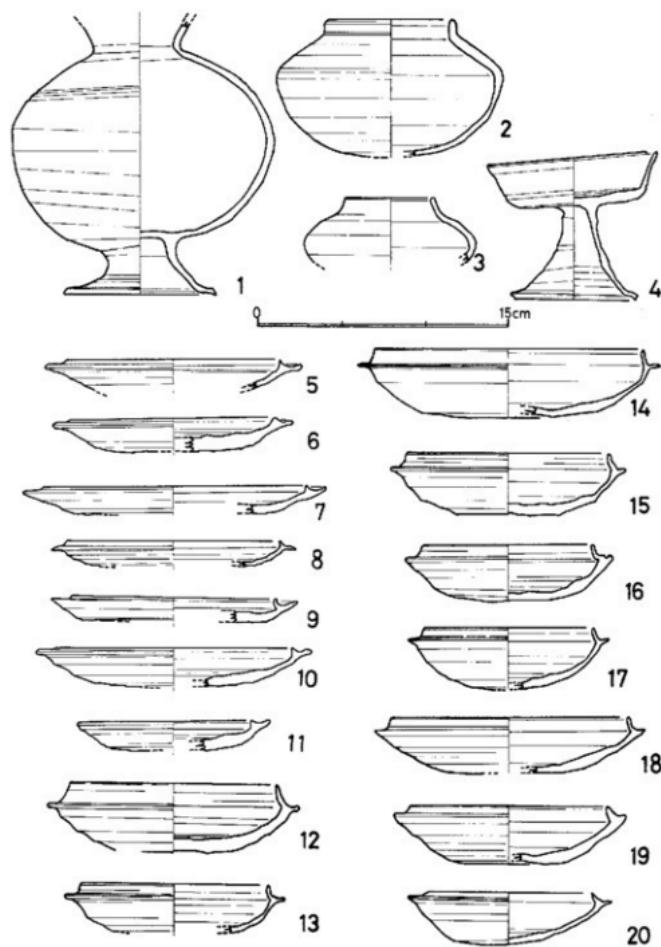


Fig. 68 包含層出土土器（須恵器）(縮尺1/3)

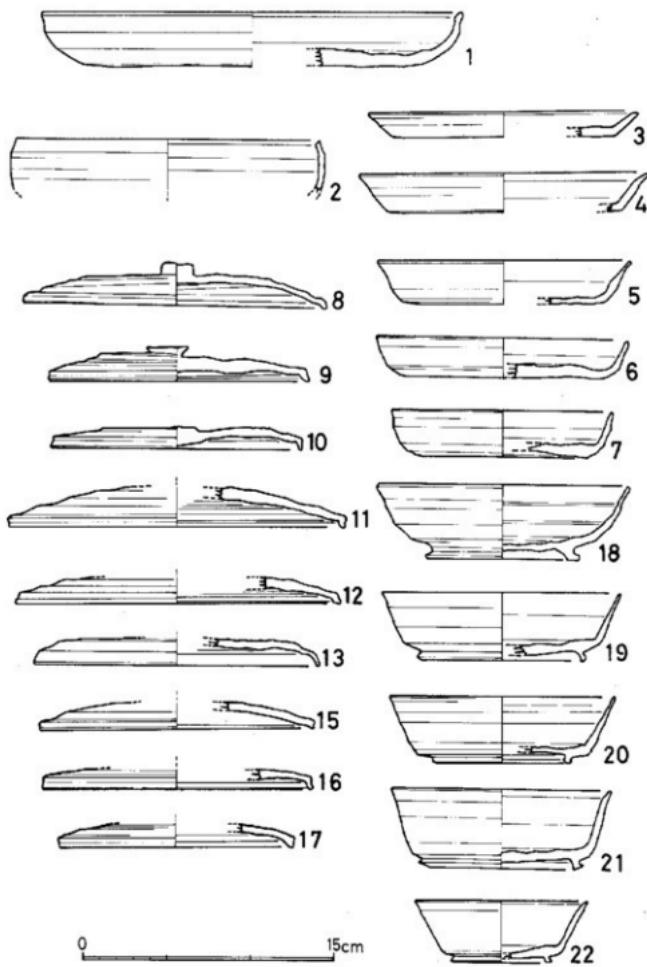


Fig. 69 包含層出土土器（須恵器）(縮尺 1 / 3)

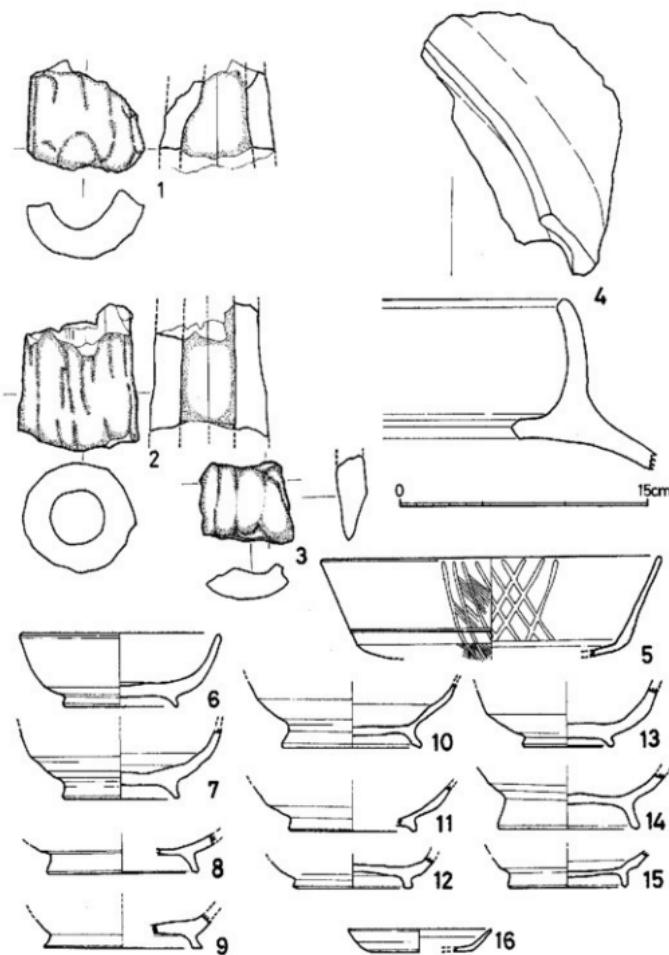


Fig. 70 包含層出土土器 (縮尺 1/3)
(1 ~ 3 が縦片、4 薄片、他は須恵器)

付 錄

大塚遺跡第3次の調査
—福岡市西区大字今宿字前田所在—

付 錄

大塚遺跡 第3次 —福岡市西区大字今宿字前田所在—

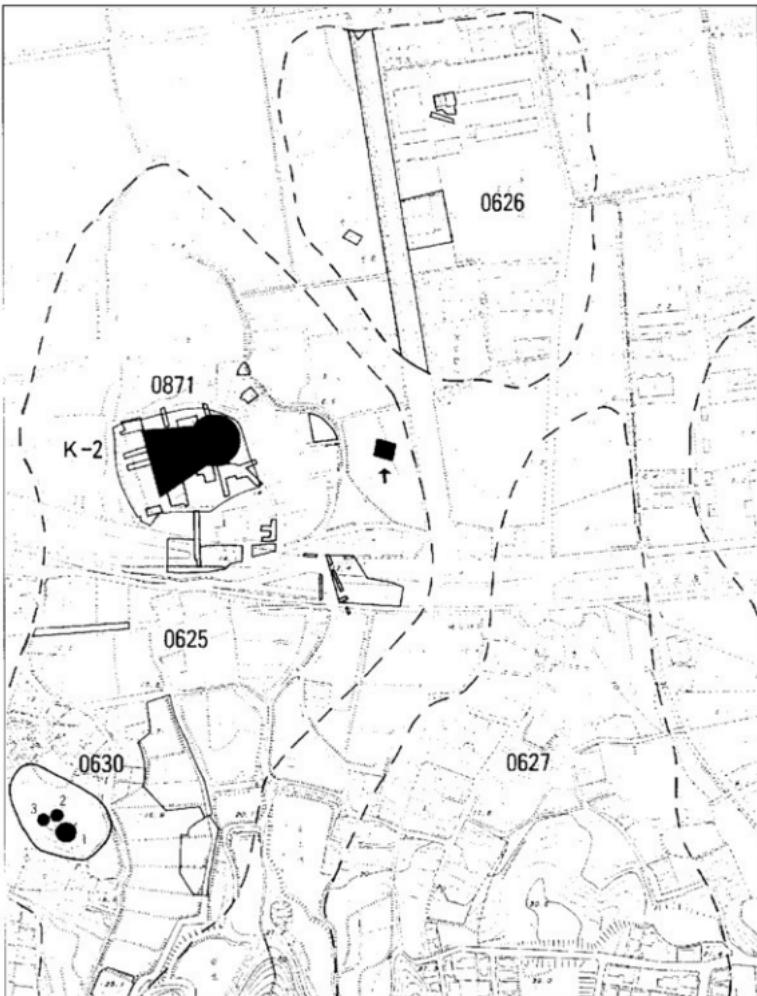


Fig. 1 遺跡とその周辺
(↑印が本地点。その西が今宿大塚古墳)

本遺跡は国史跡今宿大塚古墳のすぐ東側にあって、九州電力株式会社の高圧電力用鉄塔移設のための調査である。

遺構は堅穴住居の柱穴か高床式掘立柱の柱穴と思われるものと、自然流路と思われる溝を検出したに過ぎない。

遺物としては小さなピットの底に寝かされた高杯形土器の出土が顕著で、弥生時代前期後半期に比定される。その他、土器溜りに土器片群を2、3ヶ所見る。弥生時代前期後半から中期の時代に比定されよう。

孰れにしても本遺跡は拠点集落の周辺部と考えられ、広域的な調査に期待したい。



Fig. 2 周辺とその周辺 (39が本遺跡)

Fig. 2 周辺の主要遺跡分布図

- | | | |
|------------------|-----------------|--------------|
| 1. ヤナギノ浦遺跡 | 32. 銚崎古墳群・8号墳 | 63. 奥南坊山頂古墳 |
| 2. ヤナギノ浦古墳 | 33. 銚崎古墳群・9号墳 | 64. 平原古墳群 |
| 3. 小森遺跡 | 34. 銚崎古墳群・10号墳 | 65. 小松原古墳群 |
| 4. ヘソ塚 | 35. 青木遺跡 | 66. 新開古墳群 |
| 5. 松尾・1号墳 | 36. 三菱電機内遺跡 | 67. 鐘ツキ古墳群 |
| 6. 松尾・2号墳 | 37. 今宿小学校前遺跡 | 68. 谷上古墳群 |
| 7. ロキドー遺跡 | 38. 今宿高田遺跡 | 69. イヤゾノ古墳群 |
| 8. 桑原遺跡 | 39. 今宿大塚古墳・大塚遺跡 | 70. 相原遺跡 |
| 9. 瓜尾貝塚 | 40. 今宿大塚南古墳 | 71. 十瀬池遺跡 |
| 10. 長浜貝塚 | 41. 今宿小塚遺跡 | 72. 相原古墳群 |
| 11. 野の花学園内遺跡 | 42. 宮崎安貞碑古墳 | 73. 十瀬池古墳群 |
| 12. 野の花学園内遺跡 | 43. 山の鼻・1号墳 | 74. 本村古墳群 |
| 13. 野の花学園内南方遺跡 | 44. 山の鼻・2号墳 | 75. 焼山古墳群 |
| 14. 毘沙門山・1号墳 | 45. 八幡神社古墳 | 76. 井田用文支石墓 |
| 15. 毘沙門山・2号墳 | 46. 山崎古墳 | 77. 井田御子守支石墓 |
| 16. 毘沙門山・3号墳 | 47. 丸隈山古墳 | 78. 三雲加賀石支石墓 |
| 17. 今津貝塚 | 48. 飯氏第1号遺跡 | 79. 曽根石ヶ崎支石墓 |
| 18. 今山遺跡群 | 49. 飯氏第2号遺跡 | 80. 平原遺跡 |
| 19. 今山古墳 | 50. 飯氏第3号遺跡 | 81. 端山古墳 |
| 20. 横浜遺跡 | 51. 飯氏第4号遺跡 | 82. 築山古墳 |
| 21. 横浜遺跡 | 52. 平田遺跡 | 83. 三雲南小路遺跡 |
| 22. 西松原遺跡 | 53. 錦原遺跡 | |
| 23. 地蔵尊遺跡 | 54. 飯氏第I古墳群 | |
| 24. 長垂山古墳群・1~4号墳 | 55. 潟戸口遺跡 | |
| 25. 長垂山古墳群・5・6号墳 | 56. 千里遺跡 | |
| 26. 油板古墳群 | 57. 飯氏第II古墳群 | |
| 27. 広石古墳群 | 58. 深谷池遺跡 | |
| 28. 銚崎弥生遺跡 | 59. 田川原遺跡 | |
| 29. 銚崎古墳群・1号墳 | 60. 徳永古墳群 | |
| 30. 銚崎古墳群・2号墳 | 61. 下谷古墳 | |
| 31. 銚崎古墳群・3~7号墳 | 62. 女原古墳群 | |



Ph. 1 調査風景

- ① 北より
- ② 西より
- ③ 西より
- ④～⑥ 作業の風景

Ph. 2-2 路跡上層 (東より)



Ph. 2-1 遺跡上層 (北より)

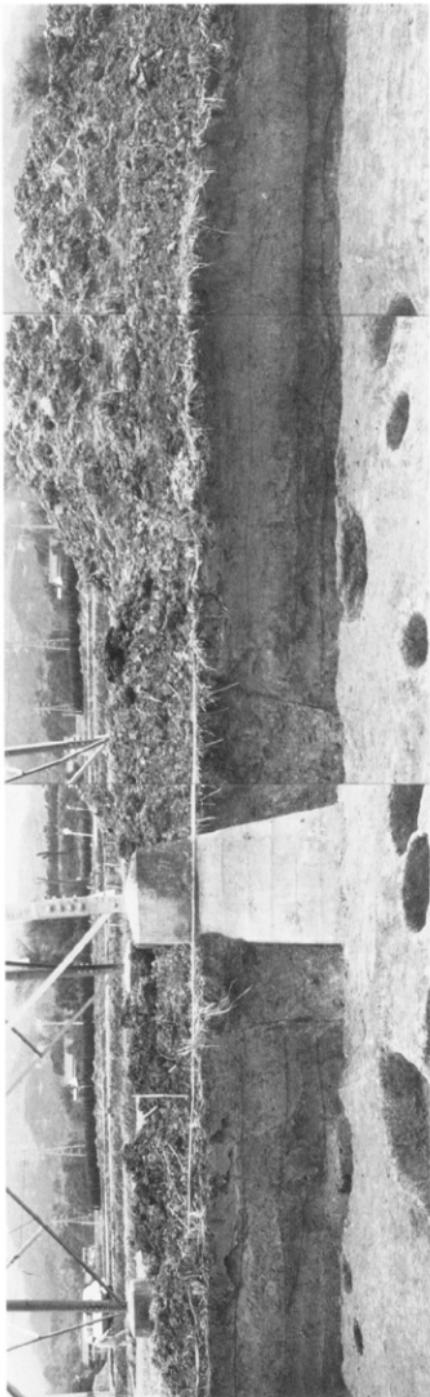


Fig. 2-4 道路土層（西より）



Fig. 2-3 道路土層（南より）





Ph. 3 造構の状態

- ① 南から北
- ④ 南から北
- ② 北から南
- ⑤ 東から西
- ③ 南から北
- ⑥ 西から東



1



2



3



4



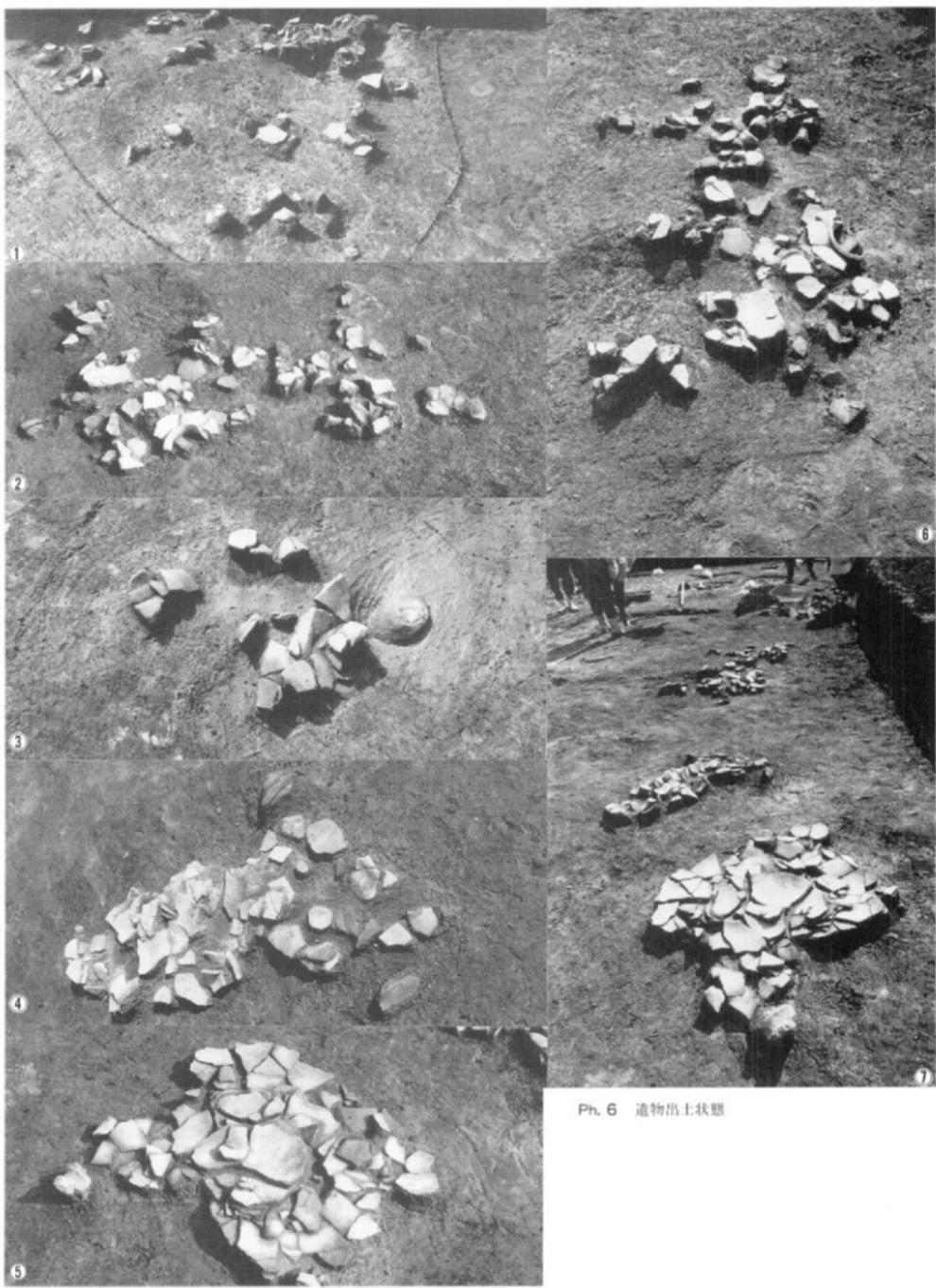
5

Ph. 4 遺物出土状態

- ①, ② 高杯形土器
- ③～⑤ 土器留り



Ph. 5 構構と遺物



Ph. 6 遺物出土状態

野方塚原遺跡

付録 大塚遺跡第3次調査

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第490集

1996年3月31日

発行 福岡市教育委員会

野方塚原遺跡調査会

福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷 株式会社 西 広

福岡市中央区天神2丁目8-34

住友生命福岡ビル
